

岩手大学国際教育センター報告 vol. 4 (2023)

目次

—国際教育センター業務報告—

日本語教育実施報告	1
英語教育実施報告	
a) 教養教育科目（英語コミュニケーション）関係	4
b) 教養教育科目（英語総合）	5
c) 大学院アカデミック英語	6
教養教育科目・国際教育科目	8
交換留学生「個別研究」報告	13
米国アールム大学サイスプログラム関連事業報告	15
イーハトーブサマープログラム IUIS2023 実施報告	18
多言語多文化交流空間 Global Village	23
令和5年度新入生オリエンテーション報告	28
海外留学支援事業	30
IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告	37
フィールドスタディ	38
地域日本語教育支援事業報告	39
岩手県留学生交流推進協議会事業報告	42
日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等	44
岩手大学外国人留学生同窓会事業報告	51
学長と外国人留学生の懇談会	54
岩大グローバルアルムナイネットワーク事業報告	57
外国の大学との交流	59
国際交流支援コーディネータについて	62
Iwate University Global Fellow について	64
令和5年度交換留学生受入・派遣実績	65
訪問海外研修生受入実績	66
岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）	67
国際研修試行計画事業報告	68
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧	70
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 岩手大学の採択状況	71

日本語教育実施報告

1.概要

国際教育センターでは、留学生を主な対象として、1)大学院入学前予備教育日本語研修コース、2)国際教育科目日本語科目、3)教養教育外国語科目日本語科目、の3種の日本語教育を各学期に提供している(授業科目は下表を参照)。受講者には、学期開始時前にオンラインプレースメントテスト受験とオリエンテーション参加を義務づけ、オリエンテーションでは、英語、中国語の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行った。受講者は各自のプレースメントテストの結果のレベルの授業の中から授業を選択し、受講した。2023 年度も従来通りの授業を実施した。

2.授業概要

<日本語研修コース>(初修者対象 A1,A2 :集中コース)

日本語研修コースは、文部科学省国費留学生入学前予備教育と国際教育科目を兼ねて開講されている。1 学期あたりの総学習時間は 340 単位時間で、初級終了を目指す。

教科書:『ひとりで学べるひらがな・カタカナ』(スリーエーネットワーク)

『A New Approach to Elementary Japanese』Vol.1,2(くろしお出版)

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
総合 (8:40-12:10)	総合 (坂本)	総合 (松林)	コミュニケーション (松岡)	総合 (坂本)	総合 (松林)
漢字 (13:00-14:00)		漢字 (坂本)		漢字 (松林)	

<国際教育科目日本語科目>

初級から上級まで5レベルの授業を実施した(科目、担当教員、実施時間帯は以下の表を参照)。

◎初級日本語Ⅰ(初修者対象 A1.1 相当)

科目名	内 容	時間	担当
文 法	初歩的な文法、語彙等の学習。 テキスト:『まるごと A1 りかい』(三修館)	水1	加藤
会 話	日常生活で使う簡単な会話学習。 テキスト:『まるごと A1 かつどう』(三修館)	木3	佐々木
表記 読解	かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文章読解の学習。 (ハンドアウト)	水2	大高

◎初級日本語Ⅱ(150 時間程度学習した人対象。A1.2-A2.1 相当)

科目名	内 容	時間	担当
文 法	初級後半の文法学習。 テキスト:『まるごと A2 初級 りかい』(三修館)	月 1・2	大高
漢 字	『にほんごチャレンジかんじ・ごいN4/5』(アスク)	木2	佐々木

会 話	日常生活のやや長い会話学習。 テキスト:『まるごと A2初級』(三修館)	木1	佐藤
-----	---	----	----

◎中級日本語Ⅰ (300 時間程度学習した人対象 B1レベル相当)

科目名	内 容	時間	担当
文 法	初級レベルの復習、中級前半レベルの文法学習。 テキスト:『短期集中初級日本語文法総まとめポイント 20』 『中級日本語文法整理ポイント 20』(アルク)	月木 1	松岡
会 話	日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方ー日本語生中継初中級1』(アルク)	月 2	加藤
読 解	アカデミック文章読解基礎。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク)	水 2	佐藤
作 文	アカデミック文章作成基礎。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	火 2	坂本
漢 字	中級前半レベルの漢字学習。 テキスト:『日本語総まとめ 漢字N3』 (アスク)	木 2	松林

◎中級日本語Ⅱ (450 時間程度学習した人対象 B2レベル相当)

会 話	大学生活(研究、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	月 1	加藤
読 解	やや高度なアカデミックな文章の読解学習。 テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)	木 4	佐々木
文 法	日本語能力試験 N2 程度の文法学習。 テキスト:『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	水 2	加藤
作 文	やや高度な文章作成方法学習。テキスト:ハンドアウト	火 3	加藤
漢 字	やや高度な漢字・語彙学習。 テキスト:『日本語総まとめ N2 漢字』(アスク)	水 3	大高
アカデミック 日本語	日本語能力試験 N2 対策。 テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N2』(アルク)	木 4	松林

◎上級日本語 (600 時間程度学習した人対象 C1相当以上)

ビジネス 日本語	仕事で使う日本語表現学習。 テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	月 3	坂本
アカデミック 日本語	日本語能力試験 N1 対策学習。 テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N1』(アルク)	金 4	坂本

<教養教育 外国語科目上級日本語> (600 時間程度学習した人対象 C1相当以上)

A・E (口頭表現)	前期は討論、後期は発表の口頭表現能力を養成する。(ハンドアウト)	月 4	松岡
B・F (論文作成)	大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。 テキスト:大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編(アルク)	水 4	加藤

C・G (文系)	前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現学習。テキスト:ハンドアウト	木 3	加藤
C・G (理系)	実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力学習。テキスト:ハンドアウト	金 1	大高
D・H (読解)	授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学習。 テキスト:大学・大学院留学生の日本語 3 論文読解編(アルク)	金 2	佐々木

*A、B、C、D は前期、E、F、G、H は後期科目。農、理工学部正規留学生日本語履修者は上級日本語 C、G(理系)必修。

3 実施状況

	交換・日研生等		総合科学研究科		学部正規		博士・研究生等	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語研修コース	2	2					6	1
初級日本語 I 文法	1							5
初級日本語 I 表記・読解	1	2						4
初級日本語 I 会話	1		3				1	8
初級日本語 II 文法	2	1					2	2
初級日本語 II 漢字	2	1	1					2
初級日本語 II 会話	2	6	1	1				3
中級日本語 I 文法	4	5	1				4	6
中級日本語 I 会話	4	5		1			4	3
中級日本語 I 作文	6	5		1			3	3
中級日本語 I 読解	6	5					3	7
中級日本語 I 漢字	3	4	2	1			3	3
中級日本語 II 文法	3	4		1			4	3
中級日本語 II 会話	2	5	1				3	2
中級日本語 II 読解	3	4		1			3	3
中級日本語 II 作文	2	4	1	1			3	2
中級日本語 II 漢字	4	3		1			2	3
中級日本語 II アカデミック	3	4		2			2	3
上級日本語ビジネス	3	4		1				1
上級日本語アカデミック	1	5					1	
上級日本語 A・E(口頭)	3	7			0	2	4	1
上級日本語 B・F(論文作成)	5	8	1		3	3	0	1
上級日本語 C・G(理系)		1	2		3	1		
上級日本語 C・G(文系)	5				1	2	2	4
上級日本語 D・H(読解)	7	2	1	1	3	4	1	2
小計	75	87	14	12	20	12	45	71
合計	162		26		32		116	

*総合研究科:大学院総合研究科「アカデミック日本語」として単位認定

*院生・研究生等:大学院生、研究生、岩手県立大学留学生、学生・教員の家族等。単位認定はしない。

報告:松岡洋子

英語教育実施報告

a) 教養教育科目(英語コミュニケーション)

In the 1st semester I taught 2 English Communication I classes. In the 2nd semester I taught two English Communication II classes, 1 English Communication III class, and since a full-time teacher had teaching issues, I also taught 1 Eigo Sogo II class.

All of my English Communication I & II classes were the same group of students, so I taught the same students twice a week for a year. The classes consisted of 33 Japanese students and 3 international students.

English Communication III consisted of 31 students. This class was similar to English Communication I, in that the students had an active learning classroom. In the classroom there was more emphasis on presentations, which was greatly aided because the class was taught in a computer room. Each week students had to give a mini speech to their groups and then to the class.

報告:ピーターセン ジェイコブ

b) 教養教育科目(英語総合)

令和 5 年度に教養教育の英語総合が国際教育センターの管轄となった。それにより、授業の質担保を目的とした非常勤講師対象 FD ミーティングや令和 6 年度用授業コーディネイトを行った。

1. FD ミーティング

英語総合は習熟度別クラスでリーディングとライティングに焦点を当てた英語の基礎力固めをすることを目的としている。その目的に合わせて選定した共通教科書の使い方や補助教材活用方法の説明を行い、英語総合担当非常勤講師とのコミュニケーション強化を図った。参加がかなわなかった教員用にミーティングを録画し、共有した。

日時:2024 年 3 月 19 日 13:00-16:30

場所:岩手大学学生センターB 棟グローバルヴィレッジ(ハイブリット)

内容:

(1)2024 年度英語総合について(成績、シラバス、活動例紹介、査定方法)

(2)教授テクニックや工夫、教室における問題について意見交換

(3)共通教科書概要、使い方、教科書付属の online practice の登録方法

リアルタイム参加者:6 名

2. 授業コーディネイト

英語総合の履修方法は、2 通り(週に 1 または 2 種類の授業を履修する)であり、学生が同じ内容の授業を履修することがないように、教員配置を行なった。

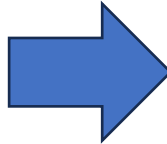
報告：山内亜美

c) 大学院アカデミック英語

Academic English (AE) oversaw many changes. As the previous professor left, I had to find a way to make the classes work. AE consisted of four classes that were reduced to three by combining AE B1 with AE B2. The classes can be seen below.

1st Semester:

AE (Reading & Writing) A1-A2
AE (Reading & Writing) A1-A2
AE (Speaking & Listening) B1
AE (Speaking & Listening) B2

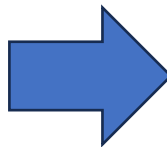


1st Semester:

AE (Speaking & Listening) A1-A2
AE (Speaking & Listening) A1-A2
AE (Reading & Writing) A1-A2
AE (Reading & Writing) B1-B2

2nd Semester:

AE (Speaking & Listening) A1-A2
AE (Speaking & Listening) A1-A2
AE (Reading & Writing) B1
AE (Reading & Writing) B2



2nd Semester:

AE (Reading & Writing) A1-A2
AE (Reading & Writing) A1-A2
AE (Speaking & Listening) B1-B2

The number of students per class were:

	人文社会	教育	理工	農学	大学院生
1st Semester:					
AE (Speaking & Listening) A1-A2					2
AE (Speaking & Listening) A1-A2			1		1
AE (Reading & Writing) A1- A2					3
AE (Speaking & Listening) B1-B2					8
2nd Semester:					
AE (Speaking & Listening) A1-A2					3
AE (Speaking & Listening) A1-A2					1
AE (Reading & Writing) B1- B2					5

報告:ピーターセン ジェイコブ

教養教育科目・国際教育科目

1. 多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目である多文化コミュニケーションA(前期)、多文化コミュニケーションB(後期)では、多文化社会におけるコミュニケーション課題をトピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。授業は、国際教育センター専任教員2名(松岡・山内)が担当した。参加学生は留学生、日本人学生を原則半数ずつとして実施した。

前期(多文化コミュニケーション A)は、41 名(日本人学生 29 名、留学生 12 名)が履修した。第 11 週には二戸市教育委員会主催中学生異文化交流事業との合同授業で中学生 8 名の参加者を交え、グループによる「二戸の災害想定とチェックリスト・タイムライン作成」の作業を半集中講義形式で行い、異世代との交流による多様なメンバーによる協働作業を体験した。

後期(多文化コミュニケーション B)は、20 名(日本人学生 10 名、留学生 10 名)が履修した。第 2 週と第 5 週には岩手県国際室との連携事業として、青年海外協力隊 OV(インドネシア派遣)、ブラジル県人会とオンラインでつないだ講話、交流事業を行った。また、第 8 週に 1 泊 2 日の合宿研修(岩手山青少年交流の家)を組み込み、「今年行くべき、盛岡」をテーマにインバウンド企画作成の協働作業を実施した。

本授業は、留学生と日本人学生が議論、協働作業を行う数少ない機会となっており、この授業を機に交流が始まった事例も多く、今後もテーマを工夫しながら継続していきたい。

報告:松岡洋子

2. Japanese History

国際教育科目「Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本の学生も参加できる日本文化プログラム。

「Japanese History A」(前期)は日本の古代史をテーマにし、初めての「日本人」・新石器時代の日本列島と朝鮮半島・弥生文化の形成・交易と海のシルクロード・古墳時代と王権の誕生・飛鳥時代前期・レポート・律令国家の成り立ち・奈良時代前期・奈良時代後期・平安時代・地方史・考古学と歴史学・復習の順で講義を行った。

「Japanese History B」は日本の近代史をテーマにし、江戸時代・幕末・戊辰戦争・明治天皇・軍事化・日清戦争・レポート・日露戦争前期・日露戦争後期・日本の植民地と第一次世界大戦・大陸の戦争・戦争の拡大・敗北・復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だが、履修生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教室内で英語を使い、基本的に英語の論文も宿題として読ませ、レポートを英語で書かせた。令和5年度の参加者は前期2名(留学生・日本学生それぞれ1名)、後期4名(留学生・日本学生それぞれ2名)。

報告:アンデス・カールキビスト

3. Comparative Japanese History A・B

国際教育科目「Comparative Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本の学生も参加できる日本文化プログラム。

「Comparative Japanese History A」(前期)は日本の神話をテーマにし、ヨーロッパと日本神話①・日本神話とは・印欧神話と日本神話・ヨーロッパと日本神話②・東南アジアと日本神話・初期の仏教・レポート・神話と政治(3回)・神話と旅(2回)・風土記の神話・復習の順で講義を行った。

「Japanese History B」は日本を訪ねた19世紀後半の西洋人をテーマにし、イントロダクション・幕末・小泉八雲(2回)・バジル チェンバレン(2回)・レポート・大日本帝国・イサベラ バード(2回)・アリス ベーコン(2回)・ロバート フォーチュン・復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だが、履修生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教室内で英語を使い、英語の作文も宿題として読ませ、レポートを英語で書かせた。令和5年度の参加者は前期1名(留学生)、後期1名(日本学生)。

報告:アンデス・カールキビスト

4. 日本事情A・B

全学共通教育科目「日本事情A・B」は留学生が専攻や学年の制限なく参加できる日本文化のプログラム。「日本事情A」(前期)は日本の地域史をテーマにし、イントロダクション(1回)・陸奥(岩手県を中心に)(3回)・横浜(神奈川県)・土佐(高知県)・出雲(島根県)(3回)・筑前(福岡県)・琉球(沖縄県を中心に)(3回)・まとめと復習(1回)の順で、日本各地の歴史、風土、文化を説明した。授業の基本的な形式は講義だったが、参加者はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。

「日本事情B」(後期)は日本の世界遺産をテーマに、前期と異なり講義ではなく留学生はグループにて日本の世界遺産について勉強し、発表した(各自4回)。3回毎に古墳・古都・中世の城・自然を勉強し、発表を行った。レポート作成も2回あった。

この授業の履修を契機に留学生は専門以外の日本文化や歴史に触れ、日本の様々な事情をよりよく理解できた。令和5年度前期の参加者は2名、後期は11名。

報告:アンデス・カールキビスト

5. 英語で学ぶ日本の文化

全学共通教育科目「Japanese Traditional Culture A・B」は留学生と日本の学生が組んで、専攻や学年の制限なく参加できる日本文化プログラム。前期と後期に分かれ、日本のいけばな(池坊)をテーマにする。

前期はイントロダクション・いけばなの歴史①(いけばな入門)・いけばなの歴史②(いけばなの伝統)・自由花(盛り花と投げ入れ)のお稽古(5回)・レポート・生花(しょうか)正風体のお稽古(5回)・復習の順で、後期はイントロダクション・いけばなの歴史③(日本いけばなの流派)・自由花のお稽古(5回)・レポート・生花新風体のお稽古(5回)・復習の順で、日本の文化のひとつであるいけばなを学び、体験した。

授業の基本的な形はお稽古であったが、留学生と日本の学生にとって交流の場ともなり、いけばなの歴史についても学びました。教室内では英語を使用し、日本の学生には英語の練習の場となった。花材は参加者が自己負担した(お稽古1回につき1千円、計10回のお稽古の

花代は合計1万円)。

この授業履修を契機に、留学生だけでなく基本的に日本の学生も知らない日本文化や歴史に触れ、それらを深く勉強する機会となった。令和5年度の参加者は前期10名(日本人学生6名、留学生4名)。後期は12名(日本人学生10名、留学生2名)。

報告:アンデス・カールキビスト

6. Regional Studies F

Every 1st semester I teach Regional Studies F which focuses on SDGs. This class is taught in English and is open to all faculties and all students 2nd grade and older. During this academic year I taught 24 students, 1 was an international student. The class had 16 science and engineering students, 4 humanities students, 1 education student, and 3 agriculture students. The class focused on introducing each SDG through teacher presentation and discussion. Each week one student group had to do a mini-intro presentation to introduce the SDGs we would cover that week. At the end of the semester each group had to present on one SDG and find examples in Iwate and find ways to volunteer or to learn more from organizations or NGOs here in Iwate.

報告:ピーターセン ジェイコブ

交換留学生「個別研究」報告

1. 概要

交換留学文系コースおよび日本語日本文化研修留学生の研究成果をまとめることを目的として「個別研究」を実施した。国際教育センター専任教員3名の指導・助言のもと、研究し、口頭発表を行う科目である。2022年度までは必修科目としていたが、2023年度からは選択科目として実施している。研究生は前期7月中旬、後期1月中旬にグローバルビレッジを会場に成果発表を行い、担当教員の評価により単位（2単位）を付与した。

2. 研究テーマ

前期（発表会：2023年7月中旬に実施）	
所属	研究課題
中国・曲阜師範大学	現代日本語における同素異順語－『新編日語』の単語を例として－
中国・曲阜師範大学	チャットコミュニケーションにおける絵文字使用の中日比較
タイ・パンヤピワット経営大学	異文化コミュニケーションに対する動機の変化とその要因
タイ・パンヤピワット経営大学	交通の比較－バンコクと盛岡
台湾・高雄師範大学	岩手の伝統的工芸のデザインの流れ

前期（発表：2023年7月中旬に実施）	
所属	研究課題
中国・寧波大学	現代の祭りと参加者のアイデンティティ

台湾・高雄師範大学	日本の自動車デザインの進化
韓国・群山大学	夏目漱石の「こころ」：遺書が表すもの
韓国・明知大学	韓国人留学生に聞くアルバイトでの差別問題

3. 現状と今後の展開

短期留学の成果として、まとまった研究を実施することに大きな意義があり、受講を推奨する価値がある。研究に取り組んだのが初めての経験という学生や、卒業論文の一部として取り組む学生などさまざまである。選択科目にしたことにより受講学生は減少したが、指導担当教員の負担については引き続き検討が必要である。なお、2024年度からは、総合科学研究科地域創生専攻の代替科目としても実施予定である。

報告：松岡洋子

米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告

1. 2023 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国アーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度には学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣するサイスプログラム(SICE: Studies in Cross-Cultural Education)において以下の支援を行っている。

- (1) 日本語教育の提供
- (2) サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供
- (3) サイスサポーターズ(サイス参加学生を支援する本学学生)の招集

今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間:2023 年 8 月 28 日(月)～11 月 27 日(月)

参加人数:4 名

日本語クラスへの参加: 2023 年 10 月 5 日(木)～11 月 27 日(月)

2. 交流イベント・活動

The following are events that were planned specifically for the SICE students:

Event Name / # of People	Date and Time	Details
Welcome Party 参加人数:49 名	2023 年 10 月 12(木) 17:00-19:00	岩手大学生とサイス学生との交流の場を提供する目的で、ハローパーティー(日英での交流)を行った。
Hello Exchange Students: Earlham College 参加人数:19 名	2023 年 11 月 2 日(木) 12:20-12:50	Each SICE student sat in their own group and introduced their college and hometown to Japanese students and other international students in English and Japanese.
SICE 引率教員による 特別講義 参加人数:16 名	2023 年 11 月 27(月) 17:00-18:00	A presentation by SICE Faculty leader, Rajaram Krishnan, titled “Measuring Improvements in the Human Development Index- The Dynamic HDI”. Very interesting and engaging presentation

		followed by an active Q&A session with the participants.
--	--	--

The following are events whose dates and times were chosen to match SICE students' schedules. Of these, only events where SICE student(s) joined are listed:

Let's Play Games 参加合計人数:27 名	2023 年 10 月 26 日・ 10 月 27 日 (木・金) 17:00-19:00	We played board and card games with Japanese and other international students in English and Japanese.
日本語カフェ 参加合計人数:34 名	2023 年 10 月 19 日・ 10 月 26 日 (木) 12:20-12:50	Nihongo Café was moved to coincide with the SICE schedule. This allowed them to practice conversational Japanese and meet other students.
Halloween Party 参加合計人数:37 名	2023 年 10 月 31 日 (火) 15:30-19:00	This was another social event for the SICE students to get to meet the other international and Japanese students on campus. Students played games and learned about Halloween
不来方祭:Global Village 参加合計人数:30 名	2022 年 10 月 21 日 (土) 終日	SICE students could play games (during their break) with other Japanese students and visitors during the School Festival.

3. English Camp

例年アールム大学サイスプログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を開催してきたが、人員交代による転換期のため今年度は実施を取りやめた。

4. 学内留学

引率教員は専門分野講義をアールム大学教育プログラムの一環としてサイス参加学生を対象に提供している。この講義を若干名の岩大生は聴講できることとなっており、岩手大学では「学

内留学」とプログラム化している。2023年度は人文社会科学部4年生が1名受講した。

5. 不来方祭での活動

岩手大学の大学祭である不来方祭にてサイス学生が活動するために、サイス学生の来盛前や在学中の申請業務や実施準備に日本語でのサポートが必要となる。これは学生団体から協力を得た活動であったが、コロナパンデミック以降は国際課および国際教育センターとサイスサポーターが支援提供を行い、不来方祭実行委員との連携を取っている。2023年10月21日の不来方祭では、サイス学生はアメリカ菓子を販売した。

報告：山内亜美・星野ルーカス

イーハトーブサマープログラム(IUIS)2023 実施報告

イーハトーブサマープログラム(IUIS)は、日本語と日本文化を学ぶ2週間の夏季プログラムである。海外協定校に在籍する学生が対象で、日本語入門と中級の2つのコースで募集し、参加者はキャンパス内の留学生向け学生寮(国際交流会館)で生活しながら、日本語授業のほか、日本文化体験やフィールドトリップを通じて、日本や岩手について理解を深める。

本プログラムは、令和4年度は試行として実施したが、コロナの影響でオンラインでの実施となった。令和5年度は初めての対面実施となり、農学系プランとスタンダードプランの、2つのプランで実施した。

1. スタンダードプラン

◇プログラム概要

午前中は日本語授業、午後は日本文化体験、週末は県内でフィールドトリップを実施し、日本語のみならず日本文化や岩手について理解を深めることができるプログラム構成とした。

◇実施期間

2023年8月17日(木)～8月30日(水) (13泊14日)

◇主催

岩手大学国際教育センター

◇実施場所

岩手大学、岩手県内

◇宿泊先

岩手大学国際交流会館(シェアタイプ・個室)

◇プログラム内容

(午前)日本語授業、(午後)日本文化体験、(土曜)フィールドツアー、(日曜)休み

◇プログラム参加費

9万円/1人

◇参加対象者

海外協定校に在籍する学生

日本語レベル:①入門/日本語未経験者、②中級前半/N3以上

◇プログラム実施人数(計:16名)

- ・ Aコース(入門日本語/日本語未経験者):9名

内訳:寧波大学1名、上海海洋大学4名、西北農林科技大学2名、華南理工大学2名

- ・ Bコース(中級前半、話す日本語/N3以上):7名

内訳:寧波大学 5 名、上海海洋大学 2 名

◇単位について

単位は付与しない。参加者には修了証書を発行する。

◇保険

来日前に各種海外旅行保険に事前加入が必要。

◇参加費支払方法

クレジットカードでの支払い

◇参加申込み方法

所属大学の国際交流担当者を通して、オンラインで申込フォームに記入

◇参加申込締切日

2023 年 6 月 26 日(月)(日本時間)

◇アンケート調査の結果

・プログラム全体の感想

「サマープログラムに参加して良かったですか」という質問には、全員が「とてもよかった」と回答し、「日本に留学したい思いが強くなったか」に対してもほとんどが「はい」を選ぶなど、好評であった。一方で全体スケジュールに関しては、「とても満足」と「満足」が半々となり、自由行動の少なさに言及するコメントも見られた。

・参加の動機について

一番多かった回答は「日本文化を体験したかったから」で、「日本語の勉強がしたかった」「日本人と交流したかった」「参加費が手ごろだった」が同率で続いた。一番少ないものは「先生や他の人に勧められた」であった。

・日本語授業について

授業内容はおおむね好評で、先生たちが優しいというコメントが最も多かった。授業時間数については、「ちょうどよかった」と「多すぎた」が半々となった。

・フィールドツアーについて

「印象に残った観光地(複数選択可)」でもっとも多く選ばれたのは「遠野ふるさと村」で、次点が「津波伝承館」と「毛越寺」「中尊寺」だった。「町屋物語館」と「平泉ガイドダンスセンター」には票が入らなかった。

・日本文化体験プログラムについて

「特におもしろかったプログラムは何ですか」の項目では、一位が「日本の遊び」、二位が「手づくり体験(場所:手作り村)」、三位が「さんさ踊り」と「いけばな」、次に同率で「書道」「折紙」「茶道」となった。どのプログラムにも好意的な感想が寄せられた。

・国際交流会館について

住みやすい、素晴らしい施設、キッチンと冷蔵庫がある、個室だった、会議室にたくさんの生活用品が用意されていて助かったと好評だった反面、物干しざおが必要、・ヘアドライヤーが戻ってこないことが多かった、湯沸かしポットがあると便利、コンセントが足りなかった、

調味料があっても良いとの要望もあった

・その他

サマープログラムTシャツについて、岩手大学の名前が入った服がもらえて嬉しい、色が明るすぎる、とても良かったが、綿の服が好きなどの感想があった。

2. 農学系プラン

農学分野におけるレクチャー、研究センター・農場などの施設見学、平泉・遠野などのフィールドトリップ、日本語授業を実施した。

◇プログラム実施期間

2023 年 8 月 17 日 (木)～8 月 24 日 (木) (7 泊 8 日)

◇主催

主催:岩手大学国際教育センター及び農学部

協力:サスカチュワン大学

◇場所

岩手大学、岩手県内

◇宿泊先

岩手大学国際交流会館(シェアタイプ・個室)

◇プログラム参加費

100,000 円／1 名

◇オプション料金

フィールドトリップ バス料金 29,000 円／1 名

◇参加者

サスカチュワン大学(プラントサイエンス専攻)に在籍する学生

◇プログラム実施人数

※学生:14 名

※引率教員 1 名、TA 学生 1 名 合計 16 名

◇単位について

単位は付与しない。参加者には修了証書を発行。

◇保険

来日前に各種海外旅行保険に事前加入。

◇参加費支払方法

クレジットカードでの支払い

◇参加申込み方法

引率教員からリストを送っていただき、学生はオンラインでの申し込み

◇参加申込締切日:2023 年 5 月 31 日 (水) (日本時間)

◇アンケート調査の結果

・プログラム全体について

アンケートの全体評価はおおむね好評であり、「サマープログラムに参加して、日本に留学したいという思いが強まったか」という質問には回答者全員が「はい」を選んだ。改善の要望で一番多かったものは、「予定が詰まりすぎて慌ただしかった」、「休息時間が少なく疲れて集中できなかった」など、スケジュールに関するものだった。

・参加の動機について

一番多かったものが「日本文化を体験したかったから」で、次点が「先生や他の人に勧められたから」。そのあとに「日本語の勉強がしたかったから」「専門分野の知識を高めたかったから」「参加費が手ごろだったから」が同率で続き、一番少なかったのは「日本人と交流したかったから」となった。

・日本語授業について

日本語授業の時間数については、「ちょうど良い」と「足りない」が半々の結果となった。授業内容については好評だった。

・フィールドツアーについて

「印象に残った観光地(複数選択可)」でもっとも多く選ばれたのは「遠野ふるさと村」と「平泉ガイドンスセンター」で、続いて「津波伝承館」と「毛越寺」・「中尊寺」・「報恩寺」が人気だった。

・日本文化体験プログラムについて

手づくり村は楽しかった、ハンドクラフト体験は面白かったし、飾ってある手工芸品を見てまわれたのも良かった、楽しく日本文化を体験することができた、と大変好評だった。

・施設見学について

「面白かったが、一日でこなすには多すぎるときもあった、他の国でどのような研究が行われているかを理解することで、人はグローバルな市場を十分に理解できる」と、「有意義なものではあるが、タイトなスケジュールだった」との感想が見受けられた。

・その他

国際交流会館について、立地が良い(コンビニやレストランに近い・キャンパスの中心にある)、清潔・新しくて綺麗、ランドリーサービスが良い、相部屋で他の学生と仲良くなれた、スタッフが親切など、好評だった。リサイクルの仕方がわかりにくかった、エアコンが水漏れした、タオルが少ないなどの改善意見もあった。

・農学部担当教員等からの感想

全体的にタイトなスケジュールで参加学生が大変そうだった。事後アンケートで、訪問先の名前を覚えていない感想もあった。

農学部での活動がなかった。学内でのレクチャーもなかった。教員との交流があっても良い。企画の狙いが学生に伝わっていない感じがする。来日する前に、訪問先を事前に調べてほしい。訪問先では学生によって温度差があった。興味深い学生もいれば、無関心だったり、話を聞かなかったり、集中できていない学生もいた。

訪問先の担当者はとても丁寧に対応してくれた。

日本人学生との交流もあまりなかった。

- ・来年度の実施について

研修内容について、こちらからの要望を事前にはっきり伝えたほうが良い。例えば、①午前
は日本語とレクチャー(基本大学での行動)、午後は見学、週末は 1 日お休み;②サス大で
の科目シラバスに事前事後研修や自己研修内容を含むことができないか;③午後の見学も
1 か所にするなど打ち合わせの内容について、先方大学の担当者に伝えることにした。

報告:国際課

多言語多文化交流空間 Global Village

1. 全体の総括

今年 8 年目となった多言語多文化交流空間 Iwate University Global Village (以下グローバルビレッジ) は、①グローバルイベント(国際交流・異文化理解・地域理解)、②日本語カフェ(日本語で留学生と会話、交流)、③All in English(英語での交流会)、④日本語べんきょうルーム(日本語の勉強支援)、⑤Staff All in English(教職員向けの英会話)を実施した。全学部からの参加者数がのべ 2092 名となった(表 1)。(参加者別の割合は図1参照)。キャンパスのグローバル化に資する国際交流・国際共修の場を構築している。

表 1 2023 年度グローバルビレッジ活動開催回数と参加者数

	グローバル イベント	日本語カフェ	All in English	日本語べん きょうルー ム	Staff All in English	合計
開催回数	90	40	38	12	22	202 回
参加者総数	1011	454	452	54	121	2092 名
内留学生総数	382	241	156	24	34	837 名
内日本人学生総数	454	197	269	29	37	986 名
内院生数	38	16	27	1	0	82 名
内一般参加者総数	137	0	0	0	50	187 名

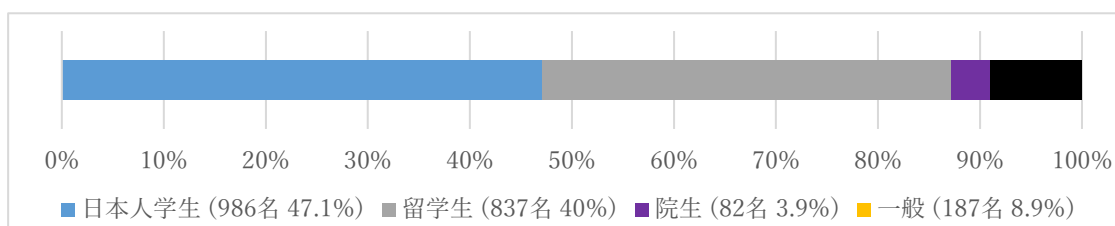


図1 グローバルビレッジ参加者割合

2. グローカルイベント

今年度は 90 のイベント(前期 36 回、後期 54 回)を実施した(参考資料:グローバルイベントの活動一覧参照)。

イベント内容は、英語力向上を目的とした複数回の講座や国際教養を深めるためのセミナー、日本文化を伝える生け花ワークショップなど多岐に及ぶ。今年度の目標は参加者数を増やすことで、グローバルビレッジスタッフと一緒にいくつかの新しいイベントを企画した。

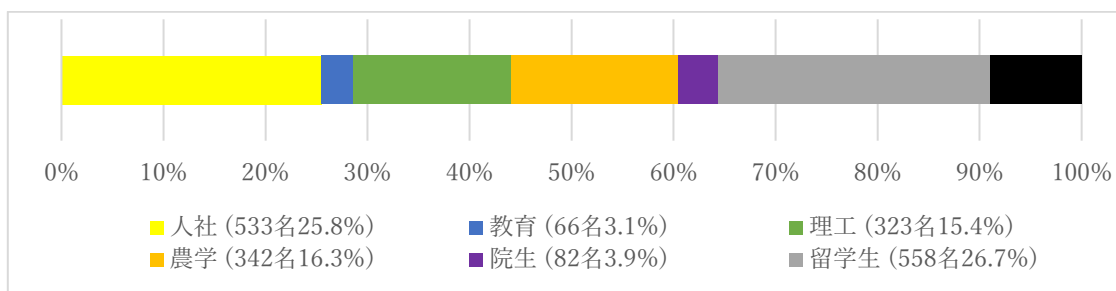


図2 グローバルビレッジイベント参加者所属別割合

3. 日本語カフェ

留学生と日本人学生が集い、日本語で交流するという趣旨の本事業は、今年度 40 回行われ、参加者はのべ 454 名であった（図 3）。今年度は対面で行った。

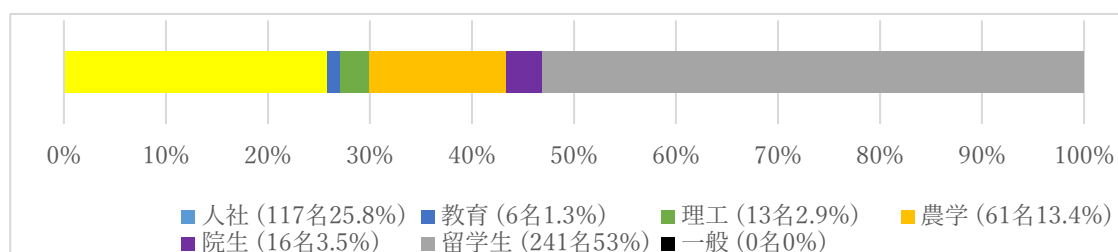


図3 日本語カフェ参加者所属別割合

4. All in English

英語のコミュニケーション能力の向上を目的とした All in English は前、後期合わせて 38 回開催され、全体でのべ 452 人が参加した（図4）。今年度は対面で行った。

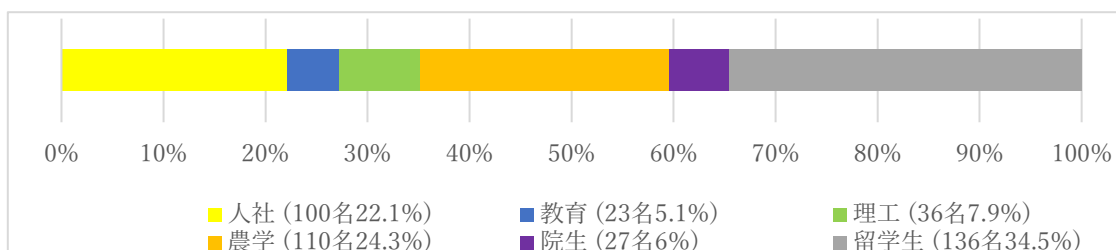


図 4 All in English 参加者所属別割合

5. 日本語べんきょうルーム

日本語の勉強支援のため、日本語の勉強ルームを実施し、宿題、作文、プレゼンのサポートがあった。後期から参加者数が少なく、また教えられるスタッフが空いておらず、中止になった。

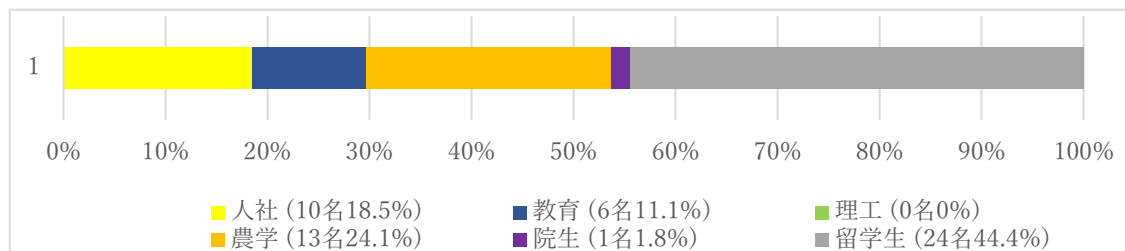


図 5 日本語べんきょうルーム参加者所属別割合

6. Staff All in English

英語のコミュニケーション能力の向上を目的としたAll in Englishは前、後期合わせて22回開催され、全体でのべ121人が参加した。(図6)

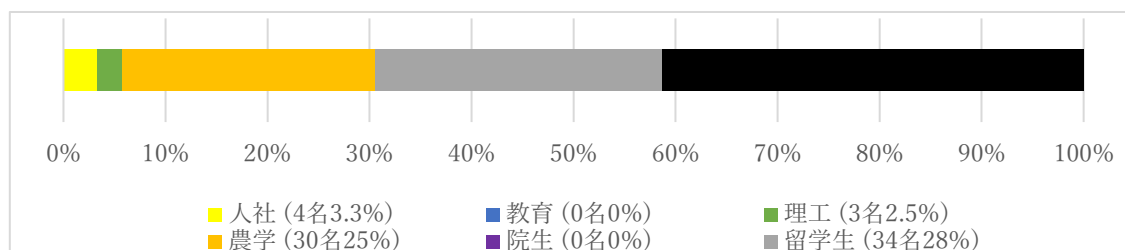


図 6 Staff All in English 参加者所属別割合

7. まとめ

今年度の参加者を増やす目標で昨年度より参加者数が約35.6%増えた。しかも、増やすために参加のしやすさを優先で企画をした結果、講演会があまり開催できなかった。留学生の参加者数が増えると日本人学生の参加者数も増えてくると考えられる。

参考資料 グローカルイベント活動一覧の

開催日	企画名
前 期	
4/17	お花見
4/18 ～ 7/19	ニーハオ！漢語 6回
4/21	英語落語
4/27 ～ 7/24	生け花教室 5回
4/28 ～ 6/30	ベリーダンスワークショップ 3回
4/28 ～ 6/23	韓国語を学ぼう！ 3回
5/8	Let's Play Sports
5/12 ～ 6/23	Let's Play Games 4回

5/16	日本の遊び
5/17	折り紙で遊ぼう！
5/18 ～ 7/11	中国の伝統舞踊体験会 3回
5/23	紙飛行機レース
6/5 ～ 6/13	留学体験報告会 2回
6/16	VR 体験会
7/7	七夕
7/14	Farewell Party
7/21	個別研究発表会
後 期	
10/11	ローカルユース 募集説明会
10/12 ～ 10/17	GV 説明会 4回
10/12	Welcome Party
10/13 ～ 1/16	ベリーダンスワークショップ 3回
10/18 ～ 1/24	ニーハオ！漢語 8回
10/19 ～ 1/18	生け花教室 5回
10/21 ～ 10/22	不來方祭:Global Village 2回
10/26 ～ 11/14	Let's Play Games 3回
10/31	Halloween Party
11/1 ～ 11/27	Hello Exchange Students 3回
11/2	VR 体験会
11/13	スピーチ・プレゼン向上セミナー スピーチ・プレゼンテーション 3つの極意 ～あなたのスピーチ&プレゼンは、これで変わる！～
11/13	英語落語
11/14	冬の過ごし方セミナー
11/15	TOEFL 説明会
11/16 ～ 11/28	Hi! こちら〇〇大学 2回
11/17	タイ人留学生によるボディペインティング
11/20	留学体験報告会
11/24	IELTS セミナー
11/24 ～ 12/13	センパイトーク 2回 (JICA OV, ブラジル県人会)
11/27	SICE 引率教員による特別講義
11/28	スコットランド紹介セミナー

11/29	中国の大学とオンライン交流しよう！雲南師範大学
11/30	English Speech Contest
12/11 ～ 12/15	Special Week 4回
12/22	Winter Holiday Party
1/4	書き初めワークショップ・カルタ
1/19	個別研究発表会

報告:国際課 星野ルーカス

令和 5 年度新入生オリエンテーション報告

1.実施したオリエンテーション等

(1)留学生オリエンテーション

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明を行った。また、盛岡東警察署に生活上の注意点に関する説明をお願いした。説明は国際教育センター及び国際課の教職員が英語及び中国語で同時通訳を行った。

(2)国際交流会館オリエンテーション

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居書類の記入を一斉に行った。

(3)チューターオリエンテーション

令和 5 年度に留学生チューターを行う学生に対して、制度の概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

上記 3 点のオリエンテーションに加えてキャンパスツアーを実施し、岩手大学キャンパス内の各施設の位置確認や利用方法の解説を行った。

2.各種オリエンテーション等の実施日程等

2.1 前期

(1)留学生オリエンテーション

日 時:令和 5 年 4 月 4 日(火)13:00～14:10

会 場:理工学部 銀河ホール

対象者:25 名

(2)交換留学プログラム開講式

日 時:令和 5 年 4 月 5 日(水)10:00～10:30

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:9 名

(3)国際交流会館オリエンテーション

日 時:令和5年4月5日(水)10:30～12:00

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:15名(国際交流会館新規入居者)

(4) チューターオリエンテーション

日 時:令和5年4月25日(火)15:30～16:15

会 場:教育学部 北桐ホール

対象者:52名

2.2 後期

(1)留学生オリエンテーション

日 時:令和5年10月3日(火)13:00～14:10

会 場:理工学部 銀河ホール

対象者:37名

(2)交換留学プログラム開講式

日 時:令和5年10月4日(水)10:00～10:30

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:16名

(3)国際交流会館オリエンテーション

日 時:令和5年10月4日(水)10:40～12:00

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:27名(国際交流会館新規入居者)

(4) チューターオリエンテーション

日 時:令和5年10月10日(火)15:20～16:30

会 場:学生センターB棟2階 GB21講義室

対象者:49名

報告:国際課

海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

1. ICT

Our department manages and maintains the ICT platform of Moodle.

As of 2023, all part-time and full-time English teachers were required to use Moodle during the school year. This usage of Moodle was successfully implemented by the teachers with little or no issues. In that academic year we also piloted a Moodle add-on called Poodl, it was a very useful tool that allowed teachers to have students submit videos for homework, but unfortunately, we couldn't continue it because we only had a 1-year free trial. To use this system, we would need to find ¥100,000 a year funding.

Currently Moodle is mostly used for English classes. Every year we enroll 1st year students into the system, which last year was 1,394 students. We have 350 courses, which is a combination of active courses, test courses, repositories, or other special situations. There are 6,830 users enrolled in Moodle. There are more users than students on campus because we delete users after 7 years, there are repeat users (undergrad and graduate), and we also teacher accounts.

報告:ピーターセン ジェイコブ

2. SPASE

I manage SPASE (Special Program Advanced Science Engineering) English presentation training. During R4 academic year we had 11 students in spring semester and 4 students in the fall semester. These sessions are 1-hour English speech preparation with the student and teacher.

報告:ピーターセン ジェイコブ

3. Super English, Step-up English, Foundation of English

Step-up English is offered as a basic English language training course for students aiming to study or train abroad, and Super English is offered to students who have completed this course and reached a certain level, with the aim of enabling them to study abroad on the TOEFLiBT®. Step-up and Super English classes are offered for 11 weeks per semester and are open to

students who meet certain English language proficiency requirements.

Table 1. Number of students attending (graduate students included in the number of students)

		令和 5 年度前期					令和 5 年度後期				
SUE	所属学部	人 社	教育	理工 学	農学	合計	人社	教育	理工 学	農学	合計
	人数	1	1	1	1	4	0	1	1	1	3
SE	所属学部	人 社	教育	理工 学	農学	合計	人社	教育	理工 学	農学	合計
	人数	3	0	7	2	12	3	0	6	2	11

Foundation of English

Foundation of English is broken down into two sections. Normal Foundation of English and study abroad. Normal Foundation of English consists of students coming to visit weekly outside of English Time. Study abroad Foundation of English focuses on preparing students before they go to another country for study.

The faculty breakdown for Foundation of English:

- Education 0
- Humanities 10
- Science & Engineering 3
- Agriculture 7

The faculty breakdown for study abroad Foundation of English:

- Education 0
- Humanities 2
- Science & Engineering 0
- Agriculture 2

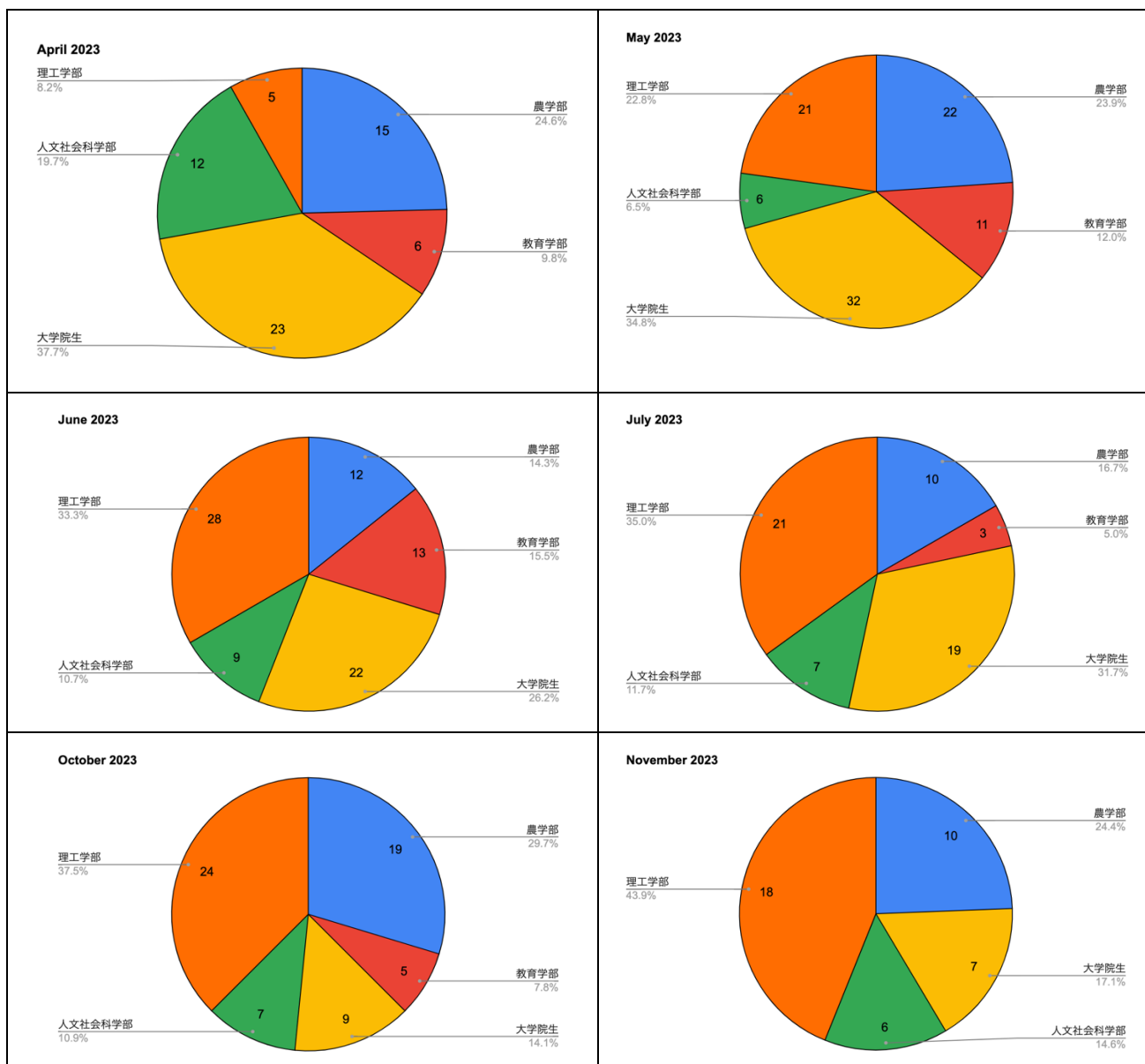
報告:ピーターセン ジェイコブ

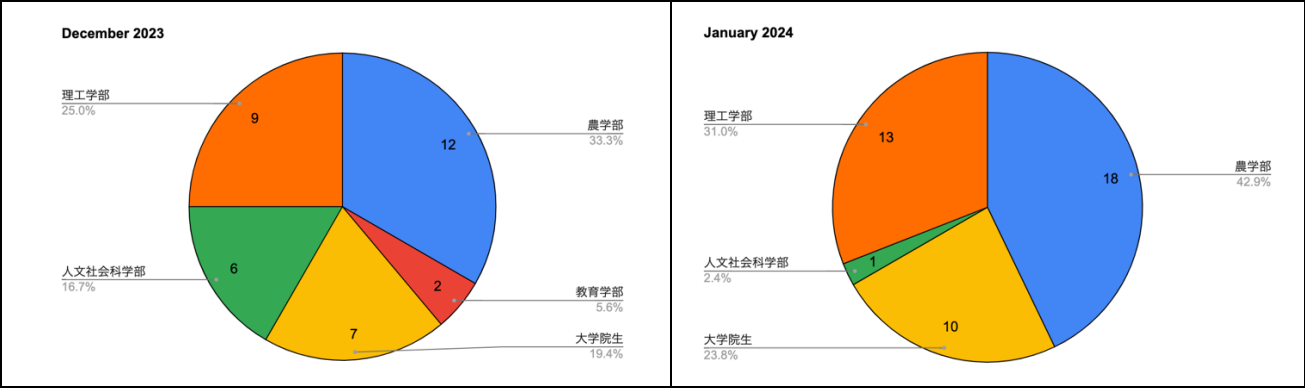
4. English Time

R5 年度前期は下記の日程で、全回(480 コマ)行われた。

English Time			
開催回数	480	理工学部	139
人文社会学部	54	農学部	118
教育学部	40	大学院生	129

The following pages shows graphs with number of students and which faculty for each month.





報告:ピーターセン ジェイコブ

5. 留学個別相談

留学を希望する学生が見通しを立てやすいように、個別相談を提供している。留学相談予約方法については、国際課の掲示板や岩手大学国際交流ホームページで周知している。1回の相談は1時間から1時間半程度で、留学の目的、種類、計画、留学準備、奨学金申請、語学勉強方法について、学生のニーズに合わせて情報を共有している。令和5年度参加学生は合計20名であった。学部内訳は、農学部7名、人文社会科学部7名、理工学部4名、教育学部2名である。学年は、1年生13名、2年生4名、3年生2名、4年生1名であった。

留学相談を行う際に、事前アンケートを実施している。集計した内容は以下の通りである。

項目	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4
留学のタイプ(複数回答あり)	北米交換留学(9)	英語圏以外交換留学(4)	短期海外研修(7)	絞りきれない(3)
留学の目的(複数回答あり)	語学向上(10)	専門学問の探求(6)	専門外学問の探求(2)	そのほか(国際理解、課題解決スキル向上、多角的な視野、文化(6)

表内の数値は回答数を示す。

6. トビタテ留学申請書執筆セミナー開催

トビタテ!留学 JAPAN 奨学金の申請では、学生が自ら立案した留学プログラムを通して、どのように成長し、その成長がどのように日本や日本の企業・組織へと貢献するのかを説明することが求められている。情報収集、論理展開、自己アピールといった申請書に必要なスキルに加え、審査員を引き込む描写力や情熱を文字に乗せる執筆力も必要となる。これらを踏まえて、4回のセッションを提供した。セミナーは受講者同士が情報共有・自己開示できるようにインタラクティブ方式で行った。受講者は人文社会科学部4名、農学部3名、理工学部3名で、学年の内訳は、4年生1名、3年生2名、2年生6名、1年生1名であった。

日程:令和5年12月20日・令和6年1月10日(16:50-18:20・18:35-20:00)

報告:山内亜美

7. 国際月間

1.1 概要

岩手大学では、本学の学生・教職員及び一般市民に対し、国際理解力の増進と国際交流への関心度を向上させ、各事業の波及効果の上昇を図ることを目的に、毎年秋に「岩手大学国際月間-Iwate University International Month-」を開催している。

現在海外協定校へ留学している学生をスピーカーに迎えたオンラインセミナー、カナダの協定校であるサスカチュワン大学の講師を招いての教授法についてのFDセミナー、英語落語や海外協定校からの留学生との座談会等、様々なイベントを集中的に開催した。

【期間】11月1日(水)～11月30日(木)

1.2 実施行事一覧

月日	時間	プログラム	場所(学内)
月間中		海外派遣・国際交流プログラム参加体験展示/動画放映	国際課隣フリースペース
11/1-		オンデマンド型海外留学体験報告会	岩手大学国際交流 YouTube
11/2	14:00- 17:00	モンゴル体感！VR 体験会	グローバルビレッジ
11/1,2,27	12:20- 12:50	Hello Exchange Students! 「海外協定校からの留学生と話そう！」	多目的室
11/9	10:30- 12:10	いわてグローバルキャリアセミナー ブラジル岩手県人会との交流セミナー	グローバルビレッジ
11/7,8,9,10	13:00- 19:40	※サスカチュワン大学による教職員・大学院生向けFD研修	グローバルビレッジ(7日) 多目的室(8-10日)
11/7	12:20-50	※留学プログラム紹介セミナー(中国・台湾)	GB21
11/13	12:20-50	パブリックスピーカーに学ぶスピーチ・プレゼン向上セミナー スピーチ・プレゼンテーション3つの極意 ～あなたのスピーチ&プレゼンは、これで変わる！～	グローバルビレッジ
11/13	16:30-	英語落語	北桐ホール

	18:00		
11/15	12:20-50	TOEFL 説明会	グローバルビレッジ
11/16	14:00- 14:40	Hi こちら上海海洋大学	多目的室
11/17	14:00- 16:00	タイ人留学生によるボディペインティング体験	グローバルビレッジ
11/20	12:20-50	留学体験報告会(千葉秋子さん・テキサス大学)	グローバルビレッジ
11/24	12:20- 12:50	IELTS セミナー	グローバルビレッジ
11/24	15:00- 17:00	センパイトークラウンジ	グローバルビレッジ
11/27	17:00- 18:00	アールラム大学 SICE 引率教員による特別講義	多目的室
11/29	15:00- 16:30	※中国の大学生とオンライン交流しよう! 雲南師範大学 (15:00-16:30)	多目的室
11/28	12:20-50	スコットランド紹介セミナー	多目的室
11/28	15:30- 16:30	Hi こちら明知大学から	グローバルビレッジ
11/30	10:30- 12:10	※留学プログラム紹介セミナー(短期研修[英語]・トビタテ)	グローバルビレッジ
11/30	16:30- 18:00	英語スピーチコンテスト	銀河ホール

この他、グローバルビレッジ定例イベント(にほんごカフェ等)を開催。

1.3 岩手大学国際交流 YouTube 国際月間再生リスト

<https://bit.ly/2ULkdQ2>

報告: 国際課

IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告

1.概要

国際教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を運営している。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成する。

2.コースのコンセプトと構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の 4 つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されている。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与される。A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に1つ以上受講・参加し、一定程度の Global Mileage を獲得した者には IHATOVO グローバルコース履修認定証を授与する(ゴールド 2000 マイル以上、シルバー達成 1200 マイル以上、ブロンズ達成 800 マイル以上獲得)。

3.実施状況

令和 5 年度にマイレージを取得した学生数は 2231 名であり、全学生(4750 名)の 46.9%だった。各学部別のマイレージ取得状況は以下の通りである。

〈認定証対象者〉(平成 28 年度からの積算数)

	人文社会	教育	理工	農	計
Gold	13	0	3	3	19
Silver	8	0	7	2	17
Bronze	7	0	5	6	18
計	28	0	15	11	54

4.表彰

グローバルマイレージ最上位のゴールドに認定された学生には、学長から認定書の授与及び海外研修参加費や外国語検定試験に係る検定料等の補助として岩手大学イーハトーヴ基金から奨学金が支給される。2023 年度は、6 月 8 日に 4 名の学生がゴールド認定証を授与された。なお、2024 年度以降は、ゴールド又はシルバーに認定された学生に対して、デジタル認定書となるオープンバッジを授与する予定となっている。

報告:国際課

フィールドスタディ

1. フィールドツアー「世界遺産 平泉」

岩手大学留学生を対象に東北地域の観光地・文化施設等への訪問を通して、留学生相互の交流促進と東北地域の風土・歴史・文化への理解を深めることを目的とし実施した。これまで各年度に一度のペースで青森県の十和田市、宮城県の松島、岩手県の陸前高田市へのフィールドツアーを実施しており、令和5年度は秋田県の角館を選定し、6月17日に執り行った。新型コロナウイルス感染症対策のため大型バス2台をチャーターし、感染防止対策を徹底して実施した。参加した47名は抱返り溪谷、武家屋敷、田沢湖遊覧船、道の駅雫石あねっこの見学を通して北東北の自然の雄大さや歴史を感じることができ、大変有意義なフィールドツアーであった。

2. フィールドスタディ「スキー・スノーボード in 岩手」

フィールドスタディ「スキー・スノーボード in 岩手」を2回実施した。1回目は、令和6年1月11日に八幡平リゾートパノラマスキー場で実施し15名が参加した。2回目は、令和6年2月9日に安比高原で実施し15名が参加した。本事業は岩手大学で学ぶ外国人留学生が、母国ではほとんど経験することがないスキーまたはスノーボードを通じて、雪国である岩手の冬に親しむことを目的に実施している。

報告:国際課

地域日本語教育支援事業報告

1. 事業趣旨

外国ルーツの住民の日本語課題や受入れ住民の多文化社会の課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成 17 年度から継続実施している。

2. 事業内容

2.1 子どもの学習支援事業

①いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日 時： 2023 年 7 月 7 日（金）13 時 30 分～14 時 30 分

場 所： 岩手大学学生センター B 棟 1 階多目的室

構成員： 岩手県教育委員会学校教育室

盛岡市教育委員会

二戸市教育委員会

一関市教育委員会

公益財団法人岩手県国際交流協会

NPO 法人 I can（一関）

いわて多文化子どもの教室むつみっこクラブ

岩手大学国際教育センター（事務局）

内 容： 協議・意見交換

- ・2022 年度事業報告および 2023 年度事業計画（情報交換、研修、支援活動、交流活動等）が了承された。
- ・各構成員からの現状・活動報告があり、日本語指導等が必要な子どもが増加傾向にあること、支援体制に地域差があり全体的には脆弱であることなどが話し合われた。

②岩手県 帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会（岩手県教育委員会共催）

日 時： 2023 年 11 月 13 日（月）9:30～16:30

場 所：岩手県立総合教育センター 4階大会議室

参加者：各教育事務所、日本語指導担当教員、市町村教育委員会、学習支援団体等

内 容：

行政説明「国及び県の動向」（岩手県教育委員会義務教育課長 武藤美由紀氏）

実践報告 久慈市教育委員会、奥州市教育委員会

基調講演「外国につながる子どもたちへの教育支援充実に向けて」

（弘前大学教授 吉田美穂氏）

情報交換（地域ごとのグループによる状況、課題など）

③日本語指導が必要な児童生徒個別支援活動

県内の小中高校からの要望に対応して、学生によるオンライン、対面の個別日本語・教科学習支援活動を実施した。学生には、アルバイト謝金を支給し、責任をもって活動に関わるよう動機づけた。

県内の教育現場の多くは、外国ルーツの児童生徒の学校への受入れ体制が脆弱なことから、指導・支援が不十分な事例が見られる。学生による支援には限界があり、予算、支援体制、人材、支援方法等に課題が見られる。

期間：2023年7月～12月

対象：11名（盛岡市立上田小学校7名、上田中学校2名、滝沢市立鶴飼小学校2名）

2.2 地域日本語教育事業

①日本語学習支援ネットワーク会議 in 山形

日時：2023年9月23日（土）10:00～16:00

場所：山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館

内容：1)基調講演「山形県の国際化の現状と日本語教育の体制づくりについて」

山形県みらい企画創造部 鈴木敦氏

「登録日本語教員と地域日本語教育」文化庁国語課 増田麻美子氏

「散在地域の生活者日本語教師は、何をすべきか」

トヤマ・ヤポニカ 中河和子氏

2)情報交換及び交流会

A. 日本語ボランティアとして活動している方

B. 日本語教師を目指している方

C. 日本語教師として活動している方

②なか東北地域日本語教育専門人材養成講座

岩手、山形、秋田の3県の大学、地域国際化協会の協定に基づき、地域の日本語教育人材育成講座を実施した（2022年度から3年間実施予定）。受講修了者には修了証を発行し、各県の人材バンク（岩手県では岩手県国際交流協会日本語サポーター）に登録し、依頼に応じて有償で日本語教育・学習支援を行っている。

協定締結団体：岩手大学国際教育センター、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科、山形大学学士課程基盤教育機構、公益財団法人岩手県国際交流協会、公益財団法人秋田県国際交流協会、山形市国際交流協会、特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

講座期間：＜オンライン研修＞ 2023年5月7日～12月20日（3県合同）

＜県別対面実習＞ 2022 年 8 月 18 日～ 9 月 15 日(岩手)

第1クール 基礎編 (20 単位時間)	5 月 20 日～ 6 月 17 日
第2クール 「学習者を知る」編 (16 単位時間)	6 月 21 日～ 7 月 12 日
第3クール 実践編 (40 単位時間)	7 月 15 日～ 8 月 5 日
対面実習(岩手版) (16 単位時間)	8 月 17 日～ 9 月 20 日
オンライン実習 (16 単位時間)	11 月 1 日～12 月 20 日

場 所：オンライン(3県合同研修)＋岩手大学学生センターB 棟(対面実習)

受講者：岩手・秋田・山形の日本語学習支援者等 計 25 名(うち岩手 9 名)

なお、今年度は事前研修として「文法ワークショップ」(4 月 2 日～23 日全 4 回)を実施し、日本語教育文法の基礎知識研修を追加し、受講者の基礎知識を高めた。修了者は、日本語学校、地域日本語教室等で活動しており、1 期生、2 期生のネットワークを拡大し、情報交換、研修参加、協働などを活発に継続している。

報告:松岡洋子

岩手県留学生交流推進協議会事業報告

1. 岩手県留学生交流推進協議会総会を開催

岩手県留学生交流推進協議会総会は、令和6年1月23日(火)オンラインで開催し、9の構成団体(計11名)の参加があった。

総会では、令和5年度事業計画として、広報誌「留学生いわて」No.36の発行について、審議のうえ実施することとした。また、令和4年度事業として、①総会の開催、②広報誌「留学生いわて」No.35の発行、③“岩手のいいところ”日本語スピーチコンテストの実施について報告があり、さらに令和5年度地域交流等実施計画調査、岩手県内高等教育機関(大学・高専)留学生データについて報告があった。

2. 岩手県留学生交流推進協議会廃止について

今回の総会において、岩手県留学生交流推進協議会の廃止について審議があり、了承された。これにより、当協議会としての活動は、令和5年度事業である「留学生岩手 No.36」の発行をもって終了することとなる。当協議会の概要及び活動内容について、総会資料を下記のとおり抜粋した。

【概要】

1990年11月27日に発足

構成員: 高等教育機関、国・地方公共団体、経済団体、留学生交流関係団体

会長: 岩手大学長 事務局: 岩手大学

活動資金: 文部科学省(2010年以降は岩手大学が経費を負担)

活動内容: 運営委員会開催、交流懇談会開催、機関紙『留学生いわて』の発行、留学生生活状況調査など。

【これまでの活動内容】

- (1) 総会(コロナ禍では紙上会議)
- (2) 機関紙『留学生いわて』の発行(データ作成、HPに掲載)
- (3) 留学生数、地域交流等実施計画調査
- (4) 交流イベント開催(写真展、スピーチコンテストなど)

【廃止理由】

情報化社会に伴い、各高等教育機関や国・地方公共団体、国際交流関係団体等はホームページ、SNSを通して、様々な情報を発信していることから、情報収集がしやすくなっている。また、「いわてグローバル人材育成推進協議会」、「岩手県国際交流関係団体連絡協議会」、「外国人材受け入れ拡大に係る関係機関連絡会議」などがあり、本協議会の事業、構成員の重複が見られ、整理する必要が生じているため。

報告:国際課

日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等

岩手大学ビジョン2030アクション「戦略 5:国際社会で活躍できるグローバル化に対応した能力を身に付けた高度専門職業人を育成する」の外国人学生の受け入れ推進において、「サマープログラムの提供及び交換留学(IU-SEP)を充実させ、その参加学生の本学上級課程への進学を促進する。これらの取り組みより、令和12年度の留学生総数を、令和元年度に比べて約10%増加させる。」と目標を掲げており、それに関連し国内外の広報活動を実施しているところである。

主に、海外で行われている日本留学フェア及び国内の外国人学生のための進学説明会、協定校訪問、卒業留学生との懇談会開催等を通じて、本学の認知度を向上、優秀な留学生の獲得、卒業留学生とのネットワーク構築のための広報活動を行っている。

令和4年度の広報活動広報計画について、下記のとおり報告する。

1. 国内

1.1 日本留学試験の国外試験会場への資料配布

令和5年6月、「令和5年度日本留学試験」国外実施会場に設置した渡日前入学許可大学資料コーナーに、本学の留学案内(日本語、英語、タイ語、中国語、韓国語)を配布し、日本留学を目指している海外の方々へ岩手大学をPRする良い機会となった。

資料配布を行った国・地域(都市)は以下のとおり。

インド(ニューデリー)、インドネシア(ジャカルタ)、韓国(ソウル・プサン)、タイ(バンコク)、台湾(台北)、ベトナム(ハノイ)、香港、マレーシア(クアラルンプール)、モンゴル(ウランバートル)

1.2 外国人留学生のための進学説明会(東京)

主催:独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)

日時:2023年6月24日(土) 10時～16時

会場:【東京会場】 サンシャインシティ 文化会館展示ホールD

参加者:山内 亜美 国際教育センター 准教授

山下 千佳 国際課 主査

盛田 凌平 入試課 主事

参加機関 137 機関

総入場者数:1184名(R1年1885名、H30年1867名、H29年2263名)

岩手大学ブース訪問者:

①総計:43 名 ※名簿に記入した学生数

(R1 年 43 名、H30 年 41 名、H29 年 44 名)

②国・地域別:中国(25名)、マレーシア(8名)、ベトナム(3名)、モンゴル(3名)

タイ(1 名)、ミャンマー(1 名)、シンガポール(1 名)、ロシア(1名)

③学部別:学部希望(37名)、大学院希望(6名)

【主な相談事項】

大学概要:岩手県と岩手大学の位置、周辺環境について

試験関係:入試日程、必要な科目、出願手続きについて(学部、大学院ともに)

日本留学試験のボーダーライン

英語成績(TOEFL など)が必要かどうか

過去問はもらえるか

納付金:入学料および授業料の額

授業料免除の得やすさ(基準)、免除される割合、免除許可者の割合

奨学金について: 私費奨学金の種類、金額、受給者数、申請方法

生活状況: おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか

宿舎について: 学生寮の設備、寮費等必要経費、民間アパートの家賃相場について

その他の質問事項:

盛岡の気候、雰囲気、等について

留学生在籍数、各国別の留学生在籍数

卒業後の就職動向について

留学生対象のイベントについて

【報告】

今回から紙の受付簿を廃止し、ブースに来たらまず QR コードから情報を入力してもらった。学部入試希望で、学びたい分野が明確な学生が多い印象だった。特に質問が多かった分野としては、「経営学」「人工知能」「デジタルメディア」「ロボティクス」であり、機械工学や防災学についての問い合わせもあった。

iPad を持ち込み、インターネット上で入試情報や研究者情報を説明した。来場者には、今後自分でも調べることができるよう、HP での情報収集方法などを案内した。日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。理工学部は

大学独自の個別入試がないことについて驚いている学生が多かった。

【改善点等】

地図・アクセス情報とキャンパスの四季の写真を掲示した。岩手の場所や気候が分からない学生も多かったため活用できた。雪の写真に興味を示す学生が多くアピールになった。

手持ち資料と募集要項等をファイリングして 2 セット用意した。募集要項の細かい点についての問い合わせも多かったため、募集要項セットは3セット用意した方がよい。

学生のお土産としてはノートと不織布バッグを配布し、好評だった。

学部希望者のなかには、入試について具体的な質問がある学生もいたため入試課から参加いただき、大変助かった。

人社・スポーツ科学は次回ポスターから削除する。

1ブースにつき、パイプ椅子が5席までと限られていた。お昼休憩後も10分休憩や他校偵察時間を教職員で回す等、フレキシブルな時間配分を事前に考えておくとも良いかもしれない。

1.3 外国人留学生のための進学説明会(大阪)

主催:独立行政法人日本学生支援機構

日時:7月8日(土) 10時～16時

場所:梅田スカイビル アウラホール及びビステラホール

参加者:国際教育センター 准教授 ピーターセン ジェイコブ

国際課 主査 小笠原 朋美

入試課 主事 盛田 凌平

参加機関:98機関(大学71機関、高等専門学校1機関、専修学校(専門課程)26機関)

総入場者数:901名

(R1 2,004名、H30 1,740名、H29 1,761名)

岩手大学ブース訪問者:

①総計:学生 32名(R1 35名、H30 49名、H29 34名)、

日本語学校等関係者 8名

②国別:中国(15名)、ミャンマー(4名)、インドネシア(3名)、韓国(1名)、台湾(1名)、香港(1名)、タイ(1名)、ベトナム(1名)、キルギス(1名)、スリランカ(1名)、ブラジル(1名)、メキシコ(1名)、コロンビア(1名)

③学部別:学部希望(27名)、大学院希望(5名)

【主な相談事項】

大学概要:岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容:関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて(どのような授業があるのかなど)

就職先:岩手大学の留学生の卒業後の就職動向

入試:入試日程、必要な科目、出願手続き、出願資格について、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績(TOEFL など)が必要かどうか(入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応)、過去の留学生の入学状況

授業料等:入学料および授業料の額、授業料免除について

奨学金:学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況:おおよその生活費

宿舎について:学生寮の有無、寮費等必要経費、寮の間取り、民間アパートの賃貸相場

その他の質問事項: 研究生への出願方法について、盛岡の気候、大学周辺の環境、大学寮の位置など

【報告】

まずブースに来た学生には受付簿の QR コードから入力してもらい、学びたい学部や大学院はありますか、とこちらから尋ねて会話を進めていくことで、スムーズに説明を行うことができた。質問内容については、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生がほとんどであった。そのため、希望する指導教員がどのような分野を研究しているのか等がわかる各学部のパンフレットがとても役立った。また、なかには民俗学を学びたいという外国人学生や経済学を学びたいという外国人学生もあり、その際は持参した iPad で岩手大学の研究者総覧ページを外国人学生と実際一緒に見ながら該当教員の検索方法等を説明することができ、とても役立った。

入学者選抜日程(学部、学部編入学、大学院)と入学者選抜方法等を掲載した岩手大学資料集等の印刷物をセットしておいたが、問い合わせが最も多い内容が盛り込まれていたため、当日かなり役立った。また、オープンキャンパスのちらしについては、岩手大学の位置や大阪から岩手までの所要時間などを伝える流れで、「もし都合がいたらよかったら来てください。」と渡すことができ、良い広報になったと感じた。

日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した。(日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、募集要項

に記載されている日本語の最低点については学生と確認した。)また、理工学部への選抜について、日本留学試験及び出願書類を総合して判定し岩手大学の個別学力検査は不要である旨説明した際には、興味深く聞いてくれる学生が多かった。

学生寮についての問い合わせも多く、なかには大阪から京都の日本語学校まで片道1時間かかり日々の通学が大変であるので、大学寮はキャンパスの近くにあるかという質問もあった。学生寮は、キャンパス内にありかつ徒歩圏内であることなどのメリットをお話した。さらに、ワンキャンパスに4学部すべてが集約されているため他学部の友人とも地理的な影響を受けることなく、在学中近くで交流することができるなど岩手大学の良い点も伝えることができた。

農学部共同獣医学科志願者で日本語学校関係者と訪問した外国人学生もあり、日本留学試験の点数も十分に満たしているのので、どのような分野を共同獣医学科で学べるかという質問もあった。また、看護学科はありますか、との問い合わせもあった。

ブースへの訪問者数の印象として、アジア圏の外国人学生だけでなく、南米圏の外国人学生も興味を持って話を聞いてくれていたのが印象的だった。前回と同様、やはり関西大学、関西学院大学などの有名校や関西近郊の大学に行列ができていた。

1.4 日本語学校学生対象の進学説明会

主催:岩手大学国際課

日時:令和5年12月19日(火)10:00～11:00

場所:岩手大学学生センターB棟1階 グローバルビレッジ

参加者:盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 生徒 3名(ベトナム3名)、上野法律ビジネス専門学校(参加無し)

説明者:理工学部教員、理工学部ベトナム留学生、国際課職員

配布資料:留学案内、理工学部パンフレット、令和6年度岩手大学私費外国人留学生選抜学生募集要項

【報告】

盛岡にある日本語学校に在籍している留学生を対象に対面での進学説明会を行った。事前に日本語学校に在籍している留学生にアンケートを実施したところ、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校から3名の参加者申込があった。3人とも理工学部への進学を希望していて、電気電子通信コースの大坊先生とベトナム人の先輩留学生から、授業内容や研究内容、取得できる資格などについて紹介した。

また、国際課職員からは出願についての詳細内容、授業料・入学料免除制度、奨学金制度、国際交流会館への入居、留学生対象のイベントなどについて説明をした。参加者は、とても真剣に話を聞いたり、質問したり、和やかな雰囲気での説明会だった。

本説明会は北東北 3 大学連携事業として開催していたが、今年度から各大学独自で企画し、他の大学へ案内を送ることとなっている。そのため、秋田大学と弘前大学へ今回の説明会の案内を送付した。特に秋田大学の場合、進学を希望している学生がいて、オンラインでの説明を提案したが、都合が付かず実施できなかった。北東北国立三大学での進学説明会は開催しないことになったため、岩手大学独自で盛岡にある日本語学校の留学生を対象に対面で開催した。秋田大学と弘前大学にも声をかけたが、今回は参加を見送った。

2. 国外

2-1. 日本留学フェア(ベトナム ホーチミン・ハノイ)

主催:独立行政法人日本学生支援機構

日程:11月25日(土) ホーチミン

11月26日(日) ハノイ

来場者:

岩手大学ブース(ハノイ・ホーチミン)の来訪者名簿より、学部、大学院のどちらに興味があるかについて 34 名から回答を得られた。34 名中 20 名(59%)は学部、残り 14 名(41%)は大学院に興味があるとの回答だった。

興味のある分野については、回答を得られた 26 名中 18 名(69%)が理工系・農学系に興味があると回答し、残り 8 名(31%)が人文社会科学系と回答した。

今回は、JASSO の方でベトナムにおいての留学フェアの宣伝が不十分だったようで、来場者数が 2019 年度よりもかなり少なかった。ほとんどの来場者が英語または日本語で対応可能な学生やご家族であった。

ホーチミン会場:1,738 名(2019)⇒881 名(2023)

ハノイ会場:1,921 名(2019)⇒1,114 名(2023)

【報告】

英語で授業を受けられるまたは卒業できる学部や修士のコースはないのかとの質問が多数あった。通訳として依頼した現役の岩手大学留学生ウットさん(ベトナム出身)がブースに来た学生やご家族へ岩手大学の様子や理工学部のことなどについてベトナム語で丁寧に対応していた。

修士課程の総合科学研究科や博士課程の理工学研究科の入試についての質問もあったので、次回は 1 部ずつ募集要項をもっていってもよいと感じた。理工系は機械工学、デジタルメディア、農学系は食品化学、人文系はマーケティングへの関心が高かった。現在学部生の方から 1 年間の交換留学をしたいという問い合わせも何件か受けた。ベトナムの大学で岩手大

学とは協定のない私立大学だったため、残念ながらできないことを伝えた。

ベトナムにある日本語学校の教員とベトナム人の生徒と一緒にブースを訪れてくれた。教員からは入試制度について詳しく問い合わせがあった。理工学部の入試制度(個別試験がなく書類選考のみ)については高評価だった。

ウットさんの情報によると、静岡大や福島大はベトナムでそれぞれの大学入試を受けられる入試会場を設けていたり、オンライン面接の導入をしていたりと、広くベトナム人に認知されているため、人気であるとのこと。岩手大学でも理工学部は書類選考のみであることを個別の張り紙をブースに設置するとよいだろう。(今回は急遽ウットさんにベトナム語の文章をパワポで作ってもらい、PC 画面にて表示した。)

なお、修士課程の入試については、機械・航空宇宙コースは筆記試験(試験科目:材料力学, 機械力学, 水力学, 熱力学)もあるため注意。理工系を希望する学生については大坊先生から学べる分野や内容について詳細に説明いただいたため非常に助かった。中には自身の研究テーマが明確に定まっている大学院進学希望の方もおり、ふさわしい指導教員候補を紹介する等、専門的な知見に基づき相談対応していただけた。やはり留学フェアに学部の教員と一緒に参加する意義は大きい。

卒業留学生のヴァーティントゥフーンさんがホーチミンのフェア会場を訪れてくれて教職員と懇談した。大手日系企業に勤めるフーンさんから勤務先企業に岩手大学生をインターンシップとして受け入れることも可能である旨のお話をいただいた。

岩手大学ブースにあいさつに来てくださった一般社団法人日本文化教育機構代表理事の星野さんによると、「今後 4~5 年でベトナムは中産階級が一気に増え、留学希望者も倍増するだろう」「授業料が高額のアメカよりアジアの大学(日・韓)はベトナム人留学生受け入れのチャンス」とのことだった。

岩手大学外国人留学生同窓会事業報告

卒業・修了生に大学が進める改革や取り組みを伝え、大学の教育・研究・社会貢献に対する率直な意見を聞く機会として、外国人留学生 OB・OG 等との懇談会を 2015 年度から 2019 年度までに国内外で計 10 回開催してきた。更に、この懇談会を契機として、各地域の同窓生が継続して交流を推進・強化し、2019 年 11 月には岩手大学創立70周年記念事業国際シンポジウム分科会として岩手大学外国人留学生同窓会設立大会を開催し、同窓会活動を進めている。

令和5年度は下記の事業を実施した。

1. モンゴル支部同窓生との懇談会

9月13日(水)、小川学長及び小林副学長、今野理工学部教授、松山理工学部教授等がモンゴル協定校訪問に合わせて、外国人留学生モンゴル同窓生との懇談会を開催した。

ウランバートル市内の Modern Nomads を会場に卒業生・修了生が集まり、モンゴルを訪問した教職員との交流と親睦を深めた。2022年から2023年に交換留学生として岩手大学で学んだ学生や、2023年に実施したさくらサイエンスプログラムで招聘した学生も来てくれて、世代を超えた交流の機会となった。

2. 学長と在学留学生との懇談会及び外国人留学生同窓会総会

3月1日(金)、小川学長及び岩手大学で学ぶ留学生と懇談会を開催した。詳細内容は、ご掲。

3. 卒業留学生紹介コーナー「福呼便り(ふっこだより)」

国際交流 HP に、卒業留学生紹介コーナー「福呼便り(ふっこだより)」を新設し、卒業後に世界で活躍する卒業留学生2名を紹介した。

- ・ヴァーティトゥフーンさん (ベトナム出身、工学部・応用化学科の卒業生)
- ・毛偉(モウ イ)さん (中国山東省泰安市出身、教育学研究科の卒業生)

(国際交流 HP <https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/alumni/to-alumni/mail-magazine.html>)

【参考】 外国人留学生同窓会支部一覧(令和6年3月現在)

	支部名	①代表者 ②事務局	申請日
1	岩手大学外国人留学生同窓会東京支部 Alumni association for Iwate University International Students Tokyo branch	①李 書墨	2018.6.15
2	岩手大学外国人留学生同窓会西安支部 Alumni association for Iwate University International Students Xi'an branch	①張 志毅	2018.6.20
3	岩手大学外国人留学生同窓会モンゴル支部 Alumni association for Iwate University International Students Mongolia branch	①グンジー ゴリーグ ②ヌグジガル プレブツォグト	2018.6.20
4	岩手大学外国人留学生同窓会タイ支部 Iwate University Alumni Association of Thailand (IWAAT:イワート)	①ラタナチャイ パイリントラ ②ナロンサック ピンチャヤピス ット	2018.7.4
5	岩手大学外国人留学生同窓会長春支部 Alumni association for Iwate University International Students Changchun branch	①趙蘭波 ②楊連玉	2018.8.20
6	岩手大学外国人留学生同窓会長江デルタ支部(上 海、浙江省、江蘇省地域) Alumni association for Iwate University International Students Yangtze River Delta branch	①楊建華 叢 培紅(副支部長) ②毛 偉	2019.6.21
7	岩手大学マレーシア同窓会 Malaysian Alumni of Iwate University (MAIU) Malaysian Alumni of Iwate University (MAIU)	①Hanafiah Yussof ②Isrami Ismail	2019.10.10
8	岩手大学外国人留学生同窓会岩手支部	①李 金花	2021.3.23

	Alumni association for Iwate University International Students Iwate branch	②白 韻	
9	岩手大学外国人留学生同窓会インドネシア支部 Iwate University Alumni Association of Indonesia (IWAAI)	①&② アントニウス ラーマト プ ジョ プルノモ	2023.2.6
10	岩手大学外国人留学生同窓会台湾支部 Alumni association for Iwate University International Students Taiwan branch	①唐 硯漁 ②謝 褪灃	2023.3.1
11	岩手大学外国人留学生同窓会 大韓民国麗水支部 Alumni Association for Iwate University International Students, Korea Yeosu Branch	①崔 明洛 ②孫 慧練	2023.3

報告:国際課

2023 年度 学長と外国人留学生・卒業留学生との懇談会 及び 外国人留学生同窓会総会 実施要項

1. 目 的 岩手大学で学ぶ外国人留学生と懇談することにより、今後の留学生受入れ体制の整備や課題の解決の一助とする
2. テーマ 学長と語ろう！～岩手大学の未来へつなぐ想い Thinking Together and Creating Together～
3. 日 時 2024 年 3 月 1 日 (金) 15:30 ～ 17:30
4. 実施方法 対面 (学生センターB 棟1階多目的室) 及びオンラインでのハイブリッド開催
5. 出席予定者
 - 〔大学教職員〕
小川学長、喜多理事、林局長、松岡副学長
国際教育センター教員 (松岡、アンデス、ジェイコブ、山内)、学務部長、
国際課長、国際課職員
同時チャット翻訳: ルーカス (和英のみ)
 - 〔留学生〕
岩手大学に在籍する留学生のうち希望者
(対面参加)
留学生
・参加者: 10名ほど (希望者)
・発表者: 参加者の中から4～5名ほど (予定)
卒業留学生 希望者
 - (オンライン参加)
 - ・留学生同窓会支部役員等
 - ・岩手大学グローバルアルumnネットワーク登録者
6. 次 第 〔司会 ジェイコブ ピーターセン 国際教育センター准教授〕
 1. 開会
 2. 出席者紹介

3. 学長挨拶
4. 第1部 在学留学生・卒業留学生からの発表
5. 第2部 懇談
6. 写真撮影
7. 副学長挨拶・閉会

7. 内 容〔主なテーマ〕

学長と語ろう！

～岩手大学の未来へつなぐ私たちの想い Thinking Together and Creating Together for Future～

第1部〔スピーチ発表〕15:30～16:30

①留学生4～5名(学部、修士、博士)

一人5分程度の発表(日本語または英語)

(口頭のみまたはPPTを使用したのスピーチ項目)

- ・自己紹介
- ・現在、勉強(研究)している内容紹介
- ・勉強(研究)のほかに頑張っていることや楽しんでいること
- ・将来の目標
- ・先輩たちに聞きたいこと(任意)

②卒業留学生 3～5名

一人5分程度の発表(日本語または英語)

(スピーチ項目)

- ・現在の同窓会活動状況
- ・後輩たちに伝えたいこと
- ・大学に期待すること

第2部〔懇談〕16:30～17:30

事前アンケートを実施し回答に基づき進行する。

- ・岩手大学への入学動機
- ・Expectation VS Reality 岩手大学での大学生活の理想と現実
- ・岩手大学の魅力は何か
- ・在学生や卒業生が誇れる大学になるためには何が必要か
- ・80周年記念事業としての希望(例 ホームカミングデー等)
- ・その他大学に要望したいこと

8. 報 告

留学生からは、「日本のアニメをきっかけとして日本留学を志し、岩手大学に留学した。思っていたよりも勉強が大変だが、興味のある研究分野に出会うことができ、学部卒業後は岩手大学の修士課程に進学することを決めた」「英語で教員の研究分野や研究内容が閲覧できるウェブページが欲しい」等といった意見が出された。

卒業生からは「自然豊かなキャンパスの中で集中して勉強に励むことができた学生時代だった」「控え目な人が多いが、すでに十分誇れる大学だと気づいてほしい。そして教職員、学生それぞれの立場からの発想を大切に前に進んでほしい」といった前向きな声が聞かれた。

80 周年に向けては、卒業生もキャンパスを訪れることができるようなイベントの要望が多く出され、大学側からは今後の記念式典への計画に懇談会で出た意見を反映させていくと参加者に伝えた。

報告:国際課

岩大グローバルアルムナイネットワーク事業報告

1. 概要

岩手大学在学中に海外留学を経験した等、国際派の同窓生ネットワークを構築し、同窓生同士の交流や、岩手大学の国際交流及び留学等を志す岩手大学生への様々なサポートを行うコミュニティを構築する。

2. 目的

卒業生及び在学生とのグローバルな相互交流により、岩手大学全体の国際化に寄与することを目的とする。

3. 名称

ROCKS:岩手大学の「岩」から由来。

R: Reuniting

O: our

C: community

K: keeping

S: solid

4. 対象

岩手大学卒業生のうち

- 1)特に留学・海外経験のある方
 - 2)海外在住の方
 - 3)国際的な業務をされている方
 - 4)留学や海外経験を岩大生に体験してもらいたいという方
 - 5)その他岩手大学の国際交流の取り組み応援したいという方
- 等

5. 実績

2020 年度

- ・ 農学部卒業生若原さん(現在はアメリカ在住)が動画による現役学生との対談実施
- ・ 卒業生による留学体験談報告を作成・発行(HP,SNS)

2021 年度

- ・ グローカルキャリアセミナーwith 岩大グローバルアルムナイコミュニティ Gandai のセンパイトーク!「留学経験を経て東北で活躍する卒業生」高橋和希さん(2021/7/16)

- ・ グローカルキャリアセミナーwith 岩大グローカルアルumnaiコミュニティ Gandai のセンパイトーク！「留学経験を経てアメリカで活躍する卒業生」江村菜津子さん(2021/11/15)

2022 年度

- ・ Gandai のセンパイトーク！&研究セミナー Collab with UGAS (岩手大学連合農学研究科)「NY 工科大学で研究者として活躍する卒業生」小林寛さん(2022/11/7)
- ・ Gandai のセンパイトーク！「グローカルに生きること、その先に思うこと」石沢友紀 さん

2023 年度

- ・ Gandai のセンパイトーク！&研究セミナー Collab with UGAS (岩手大学連合農学研究科)「テキサスで大学教員として活躍する卒業生」鈴木雅子さん(2023/12/13)
- ・ (岩手大学)2023 年度学長と外国人留学生・卒業留学生との懇談会及び外国人留学生同窓会総会へ ROCKS メンバーも参加(2024/3/1)

6. 活動予定案

- ・ グローバル・ヴィレッジイベントへの参加(同窓生によるイベント企画、セミナー講師、All in English 等への参加)
- ・ 岩手大学国際交流ホームページ上でインタビュー記事掲載、岩大生に向けて応援動画の掲載・SNS 配信等
- ・ 定期的な同窓会(オンライン開催含む)
- ・ 学長との懇談会開催
- ・ 岩大生お助け相談窓口(相談に応じて良いという同窓生のプロフィール掲載、SNS を活用等)
- ・ 卒業生の職場等へインターン受入

7. メンバー数(2022 年度現在)

10 名

※同窓会への登録を希望する個人からの届け出制

8. ホームページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/alumni/to-alumni/rocks.html>

報告:国際課

外国の大学との交流

Academic Cooperation between Universities/Faculties

令和5年5月1日現在

大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術 交流 Academic Exchange	学生 交流 Student Exchange
中華人民共和国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002.9.25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003.12.5	○	
	西北大学 Northwest University	2003.12.9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005.5.23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006.10.3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006.10.28	○	○
	山東工芸美術学院 Shandong University of Art and Design	2016.7.21	○	○
	上海海洋大学 Shanghai Ocean University	2017.5.16	○	○
	福建農林大学 Fujian Agriculture and Forestry University (FAFU)	2019.7.8	○	
	華南理工大学 South China University of Technology	2016.10.1	○	○
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004.7.13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006.8.23	○	
	全南大学校 Chonnam National University	2009.9.1	○	○
	群山大学校 Kunsan National University	2016.1.27	○	○
台湾 Taiwan	国立高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011.7.8	○	○
タイ王国	サイアム大学	2002.7.2	○	○

Kingdom of Thailand	Siam University			
	キングモンクット工科大学トンブリ校 King Mongkut's University of Technology, Thonburi	2016.6.20	○	
	ラジャマンガラ工科大学ラーナ校 Rajamangala University of Technology Lanna	2017.7.26	○	
	パンヤピワット経営大学 Panyapiwat Institute of Management	2017.12.18	○	○
	キングモンクット工科大学ラカバン校 King Mongkut's University of Technology, Ladkrabang	2018.8.1	○	○
	チェンマイ大学 Chiang Mai University	2019.5.8	○	
	ラジャマンガラ工科大学タンジャブリ校 Rajamangala University of Technology Thanyaburi	2019.5.19	○	
	ナレスアン大学 Naresuan UniversityNaresuan University	2021.11.30	○	○
ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myanmar	パテイン大学 Pathein University	2016.12.4	○	
マレーシア Malaysia	マレーシアパハンアルスルタンアブドラ大学 Universiti Malaysia Pahang Al-Sultan Abdullah	2021.9.1	○	○
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998.11.6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003.8.11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004.10.20	○	○
	アラスカ大学アンカレッジ校 University of Alaska Anchorage	2016.2.5	○	○

カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003.7.31	○	○
	サスカチュワン大学 University of Saskatchewan	2013.3.1	○	○
アイスランド共和国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011.2.16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化大学 St. Petersburg State University of Culture	2000.3.28	○	○
モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 National University of Mongolia	2017.10.1	○	○
	モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and Technology	2018.9.4	○	○
イギリス(スコット ランド) United Kingdom (Scotland)	スターリング大学 University of Stirling	2020.11.2	○	○※

※大学院生の受入(交換留学外)

報告:国際課

国際交流支援コーディネータについて

国際交流支援コーディネータは、国際化推進のための理念に基づく目標を達成するため、本学における特定の国際化推進事業を支援する専門的知識等を有する外部の者を、岩手大学国際交流支援コーディネータとして委嘱している。令和5年度は新たに8名の者を委嘱した。

国際交流支援コーディネータ 委嘱者

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
1	ラタナチャイ パイリントラ	タイ	King Mongkut's University of Technology Thonburi 助教授	2006 年 9 月 1 日
2	管 信利	日本	NPO 法人 ASIA Environmental Alliance 副代表	2014 年 10 月 1 日
3	楊 建華	中国	寧波大学日本語系副主任 副教授	2014 年 10 月 1 日
4	杉山 功	日本	彫刻家	2014 年 10 月 1 日
5	唐 硯漁	台湾	国立高雄師範大学 文化創意設計産学中心主任教授 工業設計系教授	2014 年 10 月 1 日
6	村上 清	日本	陸前高田市政アドバイザー	2014 年 10 月 1 日
7	門馬 孝之	日本	無職	2016 年 4 月 1 日
8	陳 愛陽	中国	清華大学日本語学科 准教授	2016 年 4 月 1 日
9	ポントーン トゥーパテミー	タイ	タマサート大学工学部 助教授	2017 年 10 月 1 日
10	ナロンサック ピチャヤピスット	タイ	カセサート大学人文学部 専任講師	2017 年 10 月 1 日
11	イスラミ イスマイル	マレーシア	I-FIRM SDN BHD 社 代表	2017 年 10 月 1 日

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
12	アントニウス ラーマト プジョ プルノモ	インドネシ ア	アイルランガ大学 准教授	2018 年 10 月 1 日
13	林 珈汶	台湾	ブランドマネージャー	2018 年 10 月 1 日
14	ヌグジガル プレブツォグット	モンゴル	モンゴル国立大学 プログラム・信頼性保証室長	2019 年 10 月 1 日
15	田中 琢治	カナダ	サスカチュワン大学 准教授	2019 年 10 月 1 日
16	萩原 薫	日本	高エネルギー加速器研究機構 名誉教授	2021 年 10 月 1 日
17	徳山 喜政	日本	台湾の環球科技大学デザイン学部デ ジタルメディアとプロンプトデザイン学 科 客座教授	2022 年 10 月 1 日
18	ヤンパンヤーノ ン セクサーン	タイ	ナレスアン大学 准教授	2023年 10 月 1 日
19	チャルシリ パス	タイ	シラパコーン大学 講師	2023年 10 月 1 日
20	チン テンリ	台湾	台北科技大学 教授	2023年 10 月 1 日
21	魏 華茂	中国	寧波大学食品薬学部 講師	2023年 10 月 1 日
22	上村 松生	日本	岩手大学農学部名誉教授 元岩手大学副学長(国際連携・広報 担当)	2023年 10 月 1 日
23	姜 澎	中国	山東建築大学芸術学部 講師	2024年 4月 1 日
24	ジャガルサイハ ン ソヴド	モンゴル	デザインコンサルタント	2024年 4月 1 日

報告:国際課

Iwate University Global Fellow について

「Iwate University Global Fellow」称号は、海外の教育研究機関等で活躍する本学の卒業生及び元教職員との関係強化並びに本学の国際的プレゼンスの向上を目的として授与している。

Iwate University Global Fellow 授与者

No.	氏名	国籍	所属等	授与日
1	Chilakamarri (Chary) Rangacharyulu	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 2 月 27 日
2	Karen Kikumi Tanino	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 4 月 18 日
3	Arnold Martin Howitt	アメリカ 合衆国	Harvard University ハーバード大学 アッシュセンター上級顧問	2017 年 6 月 16 日
4	Minjie Wang (王 敏杰)	中国	Dalian University of Technology 大連理工大学 模具研究所 教授	2017 年 6 月 21 日
5	Zhongchen Wang (王 中忱)	中国	Tsinghua University 清華大学 教授	2018 年 8 月 8 日
6	Lanpo Zhao (趙 蘭坡)	中国	Jilin Agricultural University 吉林農業大学 教授	2018 年 9 月 8 日
7	Choi Myeongrak (崔 明洛)	韓国	Chonnam National University 全南大学 教授	2019 年 11 月 14 日
8	Peihong Cong (叢培紅)	中国	Fudan University 復旦大学 教授	2019 年 3 月 9 日

報告:国際課

令和5年度交換留学生受入・派遣実績

学部等	受入 学生数	内訳	派遣 学生数	内訳
人文社会科学部	8	米:テキサス大学オースティン校 1 韓:群山大学 1 韓:明知大学 2 仏:ボルドー・モンテニュ大学 3 アイスランド:アイスランド大学 1	8	中:寧波大学 2 韓:群山大学 2 韓:明知大学 1 台湾:高雄師範大学 1 仏:ボルドー・モンテニュ大学 2
教育学部	4	中:曲阜師範大学 1 中:寧波大学 1 タイ:サイアム大学 2	2	米:ノースセントラルカレッジ 1 中:寧波大学 1
理工学部	3	中:大連理工大学 1 台湾:高雄師範大学 1 モンゴル:モンゴル国立大学 1	-	-
農学部	3	中:上海海洋大学 3	1	中:上海海洋大学 1
総合科学研究科 総合文化学専攻	2	中:曲阜師範大学 1 中:寧波大学 1	-	-
総合科学研究科 理工学専攻	3	中:山東工芸美術学院 2 台湾:高雄師範大学 1	1	韓:明知大学 1
教育学研究科	2	中:曲阜師範大学 1 中:寧波大学 1	-	-
合計	25	-	12	-

担当:国際課

訪問海外研修生受入実績

1. 訪問海外研修生

岩手大学において短期間(3 日以上 90 日以下)の教育、研究指導又は研修を受けることを希望する外国の大学等の学生を「訪問海外研修生」(英語名称“Short-Term Visiting Trainee”)として受け入れることで、当該者の本学における諸活動に便宜を図り、もって本学の国際的な人材育成の推進に資することを目的とした事業。

2. 令和4年度実績

学生の出身国	人数
アメリカ合衆国	4
カナダ	14
タイ	7
モンゴル	4
台湾	2
中国	17
合計	48

報告:国際課

岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧(短期研修・研究型)

▶ 【短期研修・研究型】(派遣)

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	参加資格	定員			
							R3	R4	R5
明知大サマーキャンプ(韓国語研修)	[韓国] 明知大学校	8月上旬	3週間	あり	全学	4			
春期海外英語研修	[フィリピン] デ・ラ・サール大学	3月	3週間	あり	全学	10			
グローバルプロ基礎コース (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	2月	8日	なし	全学	数名			1
グローバルプロ養成プログラム (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	4週間	あり	全学	数名			
カリフォルニア・イノベーション研修 (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	10日	あり	全学	数名			
SCIP国際研修(台湾・中国)	[台湾] 高雄師範大学	3月	2週間 (+事前・事後 研修複数回)	あり	全学	10			2
SCIP国際研修(インドネシア)	[インドネシア] アイルランガ大学	8～9月	2週間 (+事前・事後研 修複数回)	あり	全学	10		9	
異文化理解研修	[タイ] サイアム大学	2月	2週間	なし	全学	2			
日韓学生の協働研修 I	[韓国] 群山大学校・明知大学校	8月	2週間	あり	人社	15			17
課題解決型国際研修(ドイツ語)	[ドイツ] ドレスデン工科大学	3月	2週間	あり	人社	20			8
課題解決型国際研修(中国語)	[中国] 曲阜師範大学、西北大学、寧波大学、西 北大学、高雄師範大学	3月	2週間	あり	人社	20			9
課題解決型国際研修(英語)	[マレーシア] マラヤ大学	9月	2週間	あり	人社	15			5
課題解決型国際研修(英語)カナダ	[カナダ] オカナガン大学	3月頃	3週間	あり	全学	20			
課題解決型国際研修(フランス語)	[フランス] 西部カトリック大学	2～3月 8～9月	3週 or 6週	あり	人社	数名		3	3
日本語教育実習	[中国] 寧波大学	3月頃	2週間	あり	教育	10			
漢文学実地研修	[中国] 国語の教科書に出てくる場所など(寧波大 学)	9月頃または 3月頃	10日	あり	教育	5			
プアン・プログラム(英語教育実習)	[タイ] タイ国内中学校等(サイアム大学の仲介)	1月	2週間	あり	教育	7		7	7
プアン・プログラム(数学教育実習)	[タイ] パンヤピワット運営大学附属中学校	1月	2週間	あり	教育	4			2
国際研修(理系英語研修)	[カナダ] ブリティッシュ・コロンビア大学 English Language Institute	9月	3週間	あり	理工2年・3年・ 4年	10			5
国際研修(理系英語研修)	[タイ] キングモンクット工科大学トンブリー校	8～9月頃	3週間	あり	理工2年・3年・ 4年	10			6
国際研修(理系英語研修)	[フィリピン] サンカルロス大学	8～9月	4週間	あり	理工2年・3年・ 4年	10			
ハンバット国立大学校交流研修	[韓国] ハンバット大学校	11月頃	5日間	なし	理工学院生	4		8	7
将来の農学・獣医学を担うグローバル リーダー養成プログラム(オーバン大学)	[アメリカ] オーバン大学	9月	2週間	あり	農学	3			
将来の農学・獣医学を担うグローバル リーダー養成プログラム(サスカチュワン大学)	[カナダ] サスカチュワン大学	9月	3週間	あり	農学	14			
海外の森林・林業とフォレスタ－研修プログラム	[ドイツ] ロッテンブルク大学	9月	10日	あり	農学	10			
プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	参加資格	定員			
							R3	R4	R5
日本語教育実習インターンシップ	[タイ] サイアム大学	2～3月	2週間	なし	全学	2		2	1
グローバルコミュニケーション	各自の計画による			あり	総合科学研究 科				26
国際インターンシップ	各自の計画による			あり	総合科学研究 科				4
理工学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月頃	2～4週間	あり	理工学院生	数名			
連合農学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月頃	2～4週間	あり	農学院生 連大院生	数名			
						計	0	29	103

国際研修試行企画事業報告

1.事業趣旨

国際研修 SCIP の試行や新規プログラム企画を目的とし、令和 5 年度に以下の 2 つの事業を展開した。

2.事業内容

2.1 国際研修 SCIP 台湾と課題解決型国際研修(中国語)の合同実施

国際教育センターの国際研修 SCIP 台湾を人文社会科学部の課題解決型国際研修（中国語）と合同で実施した。研修内容として、本学の協定校（大学間）である台湾・高雄師範大学にて実施する中国語研修と、実地調査（3 月 6 日から 3 月 20 日まで）及び岩手大学にて実施する事前研修、事後研修並びに研究報告会で構成され、11 名の学生が参加した。参加者の内、2 名が国際研修 SCIP 台湾の単位を希望していた。

役割分担として、人文社会科学部担当教員が実施説明会の資料作成、事前・事後研修（テーマ設定、研修内容、研修報告）の指導を中心に行い、国際教育センターと国際課が協定校との連絡調整、学内広報、渡航サポート（航空券など手配など）を担当した。

研修実施中に、国際教育センター教員と国際課職員が視察した。参加学生全員が今回の研修に満足しているように感じた。参加中に交換留学に興味をもって質問している学生や遅くまで中国語の勉強をしている学生がおり、短期研修ではあるが学生の国際意識が向上しているようだった。またここ数年で高雄師範大学に交換留学している学生が増えていることもあり、現地のキャンパスや周辺環境等を視察できたことも大変参考になった。また、今後の研修テーマとして、歴史建造物が候補となった。

報告：国際課

2.2 フィリピン SCIP プログラム企画

上記プログラムの担当者交代により、新たな SCIP プログラム開拓が必要となった。フィリピン・イロイロ市に事業所を置く NGO 法人 LOOB が提供しているプログラムを視察した。この視察では、プログラム内容や参加学生が直面するであろう困難、現地での生活について確認することができた。プログラム内容は、(1)貧困、環境問題、ジェンダー、教育支援、平和というトピックのフィリピンにおけるローカルな問題についての学び、(2)問題解決に向けたフィールドワークを通してコミュニケーションや課題解決スキルの実践であった。推定される困難としては、現地の人々との英語でのコミュニケーションが挙げられる。視察時の参加学生は、遠慮がちに見えた。LOOB プログラムでは日本語でのサポートも提供されているが、研修前に事前研修としてコミュニケーションスキルや英語使用に対する自己効力感を高めておくことによって、研修への参加度や充足感を向上させることができる。これらの収穫をもとに、次年度フィリピン SCIP を本学学生に提供することを目指す。

視察日時： 2023 年 3 月 7 日～8 日

報告：山内亜美

岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧（R4 年度）

派遣依頼元	派遣日程	派遣 留 学 生 数	出身地別	交流の内容
花巻市立宮野目中学校	11 月 6 日～ 7 日	9	スリランカ バングラデ シュ フランス タイ マレーシア モンゴル	学校公開での授業のゲスト として英会話交流
サンシャイン 小学 校外国語活動支援	12 月 11 日、 19 日	1	エチオピア	小学校でお国紹介
フレンズ国際愛児園	2 月 14 日	1	タイ	幼児との交流

報告:国際課

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 岩手大学の採択状況

平成 26 年度(第1期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	3名	0名	0名
計	9名	3名	2名

平成 27 年度前期(第2期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	4名	2名	1名

平成 27 年度後期(第3期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	3名	3名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	5名	3名	1名

平成 28 年度前期(第4期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	0名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	0名

平成 28 年度後期(第5期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	5名	3名	2名
新興国コース	0名	0名	0名

世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	5名	3名	2名

平成 29 年度前期(第6期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	1名	1名
計	2名	2名	2名

平成 29 年度後期(第7期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	3名	2名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	8名	7名	6名

平成 30 年度前期(第8期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	1名

平成 30 年度後期(第9期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	3名	2名	2名
地域人材コース	4名	3名	3名
計	11名	8名	7名

令和元年度前期(第 10 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	0名	0名	0名
新興国コース	2名	1名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名

多様性人材コース	1名	0名	0名
計	3名	1名	0名

令和元年度後期(第 11 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	9名	7名	6名

令和 2 年度前期(第 12 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	1名	1名	1名

令和 2 年度後期(第 13 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名		
新興国コース	2名		
世界トップレベル大学等コース	0名		
多様性人材コース	0名		
計	3名		

新型コロナウイルス感染症の
影響により、プログラム中止

令和 3 年度前期(第 14 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	1名	1名	1名

令和 4 年度(第 15 期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
イノベーターコース	0名	0名	0名
STEAM コース	0名	0名	0名
ダイバーシティコース	2名	1名	0名
計	2名	1名	0名
令和 5 年度(第 16 期)			
申請コース	申請数	書面審査合格	最終合格者

		者	
イノベーターコース	0名	0名	0名
STEAM コース	4名	2名	0名
ダイバーシティコース	1名	0名	0名
計	5名	2名	0名

報告:国際課